国立大学法人
浜松医科大学

NEWSLETTER

No. 1
Vol. 44
2017.10

What's New

平成30年4月開設
浜松医科大学–静岡大学 共同教育課程（博士課程）光医工学共同専攻

光医学と光・電子工学を融合させた光医工学分野における高度専門人材の育成

平成30年4月開設

浜松医科大学 × 静岡大学

共同教育課程（博士課程）

光医工学共同専攻

Cooperative Major in Medical Photonics

21世紀が抱える健康、医療、高齢化等の諸問題の解決に向け、
光医工学に関する専門的な知識と技能を身につけ、
光医学と光・電子工学の双方に精通し、かつ、高い見識と幅広い
国際感覚、高い倫理観を有する人材を養成します。

入学定員	浜松医科大学3名／静岡大学5名
学　　位	博士（光医工学）
教員組織（専任教員）	浜松医科大学7名／静岡大学8名

共同教育課程とは?

浜松医科大学と静岡大学の両大学が、共同して教育課程を編成・実施する大学院です。

目次

トピックス 1-3
- ●平成30年4月開設 浜松医科大学－静岡大学 共同教育課程（博士課程）光医工学共同専攻

研究最前線 4-5
- ●ストレスホルモン放出機構の新しい経路を発見 …… 4
- ●頭頸部癌におけるエピジェネティック解析に関する継続的な研究 …… 5

新任職員の紹介 6-9

主催学会・シンポジウム 10
- ●第46回日本小児外科代謝研究会
- ●第94回日本生理学会大会

海のむこうで 11-12
- ●International Service-learning in Nicaragua …… 11
- ●ポルトガルへの研究留学 …… 12

共同専攻3つの特色

光医学と光・電子工学を融合した世界最先端の研究分野	浜松医科大学では、光・電子工学技術による革新的医療技術と医療機器開発、光・イメージング技術による治療法・診断法の開発等の研究成果があります。また、静岡大学では、先進的イメージングテクノロジーやナノテクノロジー、革新的受発光・電子工学による生体計測技術等の研究成果があります。両大学の強みを融合した分野を研究することができます。
光医工学の研究開発拠点を活かした人的・技術的交流	浜松医科大学の光尖端医学教育研究センター及び医工連携拠点棟、静岡大学の電子工学研究所及び光創起イノベーション研究拠点棟を研究の場とし、企業の研究者等との人的交流が可能となるとともに、技術指導も受けることができます。
実際の医療現場に繋がる研究環境	浜松医科大学医学部附属病院等において、医療機器開発企業との共同研究を促進しています。本大学院生も指導教員の指導のもとに加わることができ、医療機器開発への参画や共同研究が可能です。

教育課程の特色

- 浜松医科大学の強みである光技術を応用した医学研究の環境・実績と静岡大学の強みである光・電子工学の先端研究の環境・実績を、学生・教員・研究レベルで融合して教育課程を展開します。
- 実際の光・電子工学開発現場、医療現場でのフィールドワークを取り入れます。
- 1年次より主指導教員と副指導教員2名（両大学各1名）の複数指導教員制により、学生自身の研究分野の専門性に偏ることなく、医学及び工学両面からの観点、基礎及び応用両面からの観点を含む多面性をもって指導を行います。

大学ニュース 6-24

- 医学系大学倫理委員会連絡会議を開催 …… 6
- 教育・研究スペースの再生と産学官連携施設の整備 …… 9-10
- 各種行事 …… 13-14
- サークル活動の記録 …… 15
- サークル紹介 …… 16
- 学会賞等受賞 …… 17
- 学生の受賞 …… 18
- 国家試験合格状況 …… 19-20
- 平成28年度卒業生・修了生の進路状況 …… 21
- 平成29年度入学者選抜試験実施状況 …… 22
- 留学生の紹介 …… 23
- 浜松医科大学基金 …… 24

卒業生は今 25-26

- 子育て循環器科医のwork life balance …… 25
- 養護教諭っていいな …… 26

表紙の写真

平成28年11月に「はんだやまっぴー」を本学マスコットキャラクターに決定しました。イベントやグッズ、学内外への広報など、いろいろな場面で登場します。また、平成29年6月7日（水）に開催した開学記念行事にて、「はんだやまっぴー」の着ぐるみがデビューしました。

平成29年6月7日撮影

光医工学共同専攻の3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

本共同専攻では、光・電子工学と光医学を融合させた光医工学の分野の研究者として社会に貢献できる人材を育成するために、次のような資質を備えた学生を選抜する。

1.光・電子工学と医学を学ぶために必要な基礎学力と、旺盛な科学への好奇心を有している人材

2.生涯を通して学修する意欲と向上心を持ち、知識を応用した独創的な発想ができる人材

3.誠実さと協調性、倫理観を有し、異なる分野の人との共同作業に取り組める人材

4.国際社会や地域社会に目を向けている人材

カリキュラム・ポリシー

本共同専攻が光医工学分野において目指す人材の育成を達成するために、以下のような教育課程を編成・実施し、学修成果を評価する。

1.専門知識と技能
専攻共通科目、基礎科目、専門科目の多様な取得を可能にし、光・電子工学と光医学の専門知識の修得と、これらの融合による光医工学の学識と技術の修得を図る。

2.自律的学修能力と応用能力
多様な専攻共通科目、専門科目の特別研究及び特別演習を開講することにより、光医工学の学識と技能を応用する能力と、最新の知識を修得する習慣を育むとともに、医工学の進歩や革新的技術の創造につながる独創力を育む。

3.豊かな人間性と高い倫理観
講義を通じて研究倫理、医療倫理の基本の理解を図るとともに、特別演習、特別研究及び研究インターンシップを通じて倫理観の成熟と定着を図る。同時に分野の異なる人材との共同作業を通じて、コミュニケーション能力を育成する。

4.国際社会・地域社会に対する貢献力
特別研究、特別演習及び研究インターンシップにより、グローバルな視野に立って光医工学の研究成果を発信する能力を育む。

ディプロマ・ポリシー

本共同専攻では、光・電子工学と光医学を融合させた光医工学を修め、以下の能力を有する者に博士（光医工学）の学位を与える。

1.専門知識と技能
光・電子工学と光医学の専門知識と技能を身につけ、医療現場の課題やニーズを理解することができる。

2.自律的学修能力と応用能力
光医工学の専門知識と技能を応用する能力と最新の知識を修得する習慣を身につけ、抽出した医療現場の課題やニーズに対し、必要な情報を収集・分析して解決できる。また、光医工学の進歩や革新的技術の創造に寄与できる。

3.豊かな人間性と高い倫理観
豊かな人間性、コミュニケーション能力、並びに高い研究倫理及び医療倫理観を身につけ、医療現場に入り光医工学の研究を行うことができる。

4.国際社会・地域社会に対する貢献力
光医工学の技術及び研究成果を広く国際社会や地域社会に普及させるための、必要な知識と技術を身につけている。

科目の構成

科目区分		修了要件単位数	内容
専攻共通科目		4単位以上	関連の法規範の知識などの専門科目よりも広い学術・技術領域において光医工学の研究者に求められる素養を修得する講義形式の科目の他、研究インターンシップを開設する。
基礎科目		4単位	専門科目を履修するための基盤となる知識を修得する科目、医工学分野の全ての研究者が修得すべき倫理観を涵養する科目を開設する。
専門科目	光医用センシング・画像科学科目 光医用デバイス・機器工学科目 特別演習・特別研究	14単位以上	光・電子工学及び医学の基本的な知識の修得と医療現場のニーズの把握を目的とした講義形式の科目及び「特別演習」、「特別研究」を開設する。
計		24単位以上	

ストレスホルモン放出機構の新しい経路を発見

神経生理学講座 教授
福田 敦夫

神経生理学講座において柿沢圭亮大学院生(写真右から6番目)らは、うつ病や神経性食思不全症など、精神的・肉体的ストレスで分泌が増えるグルココルチコイドの放出機構における新たな経路を発見しました(*Science Advances* 2: e1501723, 2016)。すでに中日新聞、日本生理学会サイエンストピックスなどで報道されましたが、概要は以下のとおりです。

副腎皮質からのグルココルチコイド分泌は、視床下部室傍核の副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン(CRH)によって下垂体から副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の分泌が促進されることによって促進されるという、いわゆる視床下部―下垂体―副腎系(HPA axis)で調節されます。HPA axisはさらに、視床下部と下垂体のレベルで各々グルココルチコイドによるネガティブフィードバックによる調節を受けます。非ストレス状態においては、CRHニューロンは、γ-aminobutyric acid (GABA, 抑制性神経伝達物質) ニューロンの室傍核への入力によって抑制されています。GABAが抑制性に働くためには細胞内Cl^-濃度が低いことが必要であり、室傍核のCRHニューロンの細胞体においては、K^+-Cl^-共輸送体 (KCC2: Cl^-汲み出し機能)の発現によって細胞内Cl^-濃度が低く保たれています。一方で、急性ストレス時にはCRHニューロン細胞体におけるKCC2の細胞膜での発現が低下することによって細胞内Cl^-濃度が上昇し、CRHニューロンに対するGABA作用がCl^-流入による抑制性からCl^-流出による興奮性に変化することが知られています。

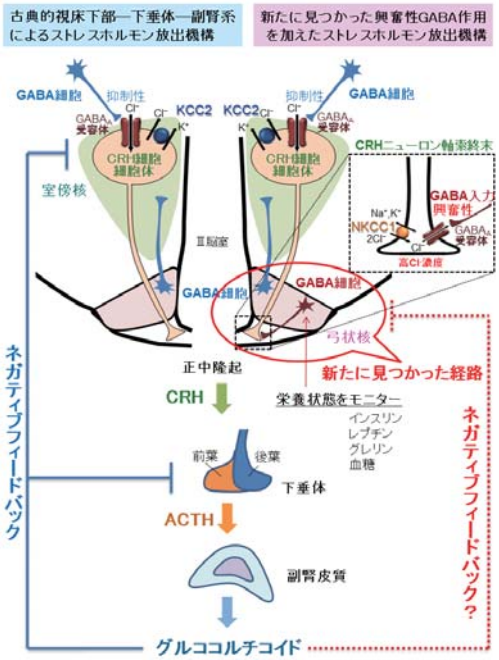
本研究では、GABA合成量が半減したマウス(GAD67-GFP knock-in,ヘテロ)を用いて検討したところ、非ストレス状態でもGABAの減少により、CRH放出が減少して細胞体に蓄積していることがわかりました。そこで、CRH放出部位である視床下部正中隆起のCRHニューロン軸索終末に着目したところ、終末には$GABA_A$受容体とともに細胞内にCl^-を取り込むNa^+-K^+-2Cl^-共輸送体(NKCC1)が発現していましたが、室傍核のCRHニューロン細胞体とは対照的にKCC2は発現していませんでした。さらに、逆行性トレーサーによりGABA作動性線維の投射元が視床下部の弓状核であることも突き止めました。ついで、CRHニューロン選択的にCa^{2+}感受性蛋白GCaMP3を発現するマウスを作製してGABA作用を調べたところ、細胞体では細胞内Ca^{2+}が減少したのに対し、終末では増加しました。すなわち、CRHニューロン軸索終末はNKCC1発現により細胞内Cl^-濃度が高く、弓状核から投射するGABAが興奮性に作用してCRH分泌を促進するという、ストレスホルモン放出機構の新しい経路を発見しました(図)。

弓状核は、摂食行動制御の中心であり、摂食行動を促進するニューロペプチドY (NPY)／アグーチ関連ペプチド(AgRP)を産生するニューロンと、摂食行動を抑制するα-メラノサイト刺激ホルモン(α-MSH)を産生するプロオピオメラノコルチン(POMC)ニューロンが存在し、室傍核への投射などを介して相反的な働きをしており、摂食行動やエネルギー代謝に重要であることが知られています。このうちAgRP/NPYニューロンとrat insulin promoter (RIP)ニューロンがGABA作動性で、血中のインスリンやレプチン、グレリンなどを介して栄養状態をモニターしているので、摂食行動に伴うグルココルチコイドの変化に今回発見した機構が関与している可能性があります。AgRP/NPYニューロンにはグルココルチコイド受容体が発現することも知られており、栄養や代謝状態によるHPA axisへのネガティブフィードバックループを形成しているのかもしれません(図)。これは今後さらに展開すべき課題だと思っています。

本研究は浜松医科大学地域家庭医療学講座 沖 隆教授、同内科学第二講座 須田隆文教授、群馬大学大学院 柳川右千夫教授、東北大学大学院 井樋慶一教授との共同研究で、科学研究費補助金(新学術領域研究、基盤研究B、挑戦的萌芽研究)の支援により行いました。

写真

図



従来の視床下部室傍核―下垂体―副腎系(HPA axis)と今回新たに見つかった視床下部弓状核―正中隆起の興奮性GABA誘発性CRH放出を加えた栄養や代謝状態によるHPA axisへのネガティブフィードバックループ。

発表論文

Kakizawa K,Watanabe M,Mutoh H,Okawa Y,Yamashita M, Yanagawa Y,Itoi K,Suda T,Oki Y,Fukuda A: A novel GABA-mediated corticotropin-releasing hormone secretory mechanism in the median eminence. *Science Advances* 2: e1501723, 2016.

オープンアクセスですので以下のサイトから無料でダウンロードできます。
http://advances.sciencemag.org/content/2/8/e1501723.full

耳鼻咽喉科 講師
三澤 清

頭頸部癌におけるエピジェネティック解析に関する継続的な研究

研究の背景

15年前に米国ミシガン大学耳鼻咽喉科に留学する機会があり、頭頸部癌研究の第一人者であるTE Carey教授から「頭頸部癌におけるエピジェネティック解析」というテーマをいただきました。エピジェネティクスとは「遺伝子配列の変化を伴わない表現型の変化」とされDNAメチル化、ヒストン化学修飾などの研究が盛んに行われています。当時、Careyラボでエピジェネティック研究は、日本人留学生が取り組み始めたばかりで成果を上げるには至っていませんでした。毎日DNAメチル化PCRとウエスタンブロットを行い、毎週金曜日のラボミーティングで整合性のない結果を報告しCarey教授をがっかりさせていました。渡米から1年が経過した頃、ずっと疑問であったことを思い切って切り離した結果、論文発表にいたることができました。苦労した留学でしたが、そのおかげで自己解決能力を身に着けることができ、今の“継続的”な研究に生きていると思います。

研究の結果

Careyラボでは、頭頸部癌における18番染色体長腕23の異常について長年研究していました。我々は、その染色体部位のガラニン受容体1型（GALR1）遺伝子について研究し、頭頸部癌の新規癌抑制遺伝子としてのデータを幾つか報告することができました[1]。帰国後、浜松医科大学でGALR2やその他の神経ペプチド受容体遺伝子のDNAメチル化解析を行いました[2]。帰国後は大学勤務でなかったため、近隣病院からゲル流しに5年間通いました。帰局後は、有能な実験助手さん（本職は声楽講師）にお手伝いいただき、リアルタイムPCRが導入され多数のサンプル、多くの遺伝子の解析を進めることができるようになり、成果を継続的に報告することができました。ステージ早期の頭頸部癌例の再発予測に有効なマーカー、部位別（口腔、咽頭、喉頭）のエピジェネティックパターンの違いなどを最近報告しています[3][4]（図1、図2）。今年6月には、同窓会松門会から学術奨励賞をいただくことができました。

今後の展開

現在、DNAメチル化解析中心の研究から、メチル化・脱メチル化酵素の働きとそれをコントロールしている転写因子の研究への展開をすすめています。有用なデータになることを期待しています（図3）。また、これまでの学会活動などを通して他大学の若い先生方からテーマをいくつか提案していただき共同研究を行っています。新しい感覚やエネルギーを吸収できるため、マンネリ化を防ぐことができています。実験助手さんが私の研究を進めてくれる安心感があるから、他大学の先生との実験に時間を割けるのかもしれません。今後はどのような仕事、縁由と出会えるのか楽しみにしながら研究メンバーと活動を続けていきたいと思います。

図1
11遺伝子のステージ別のメチル化の頻度について

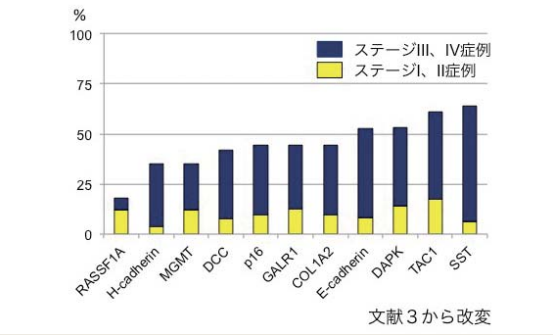


図2
NPYR遺伝子の部位別のメチル化解析とその予後について

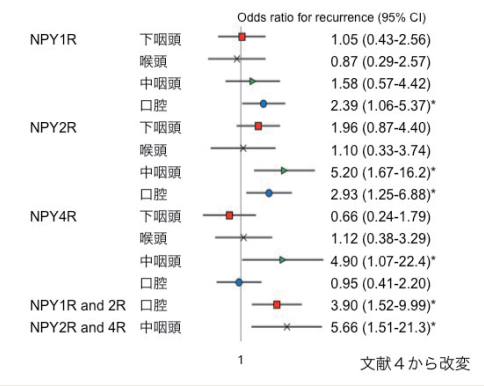
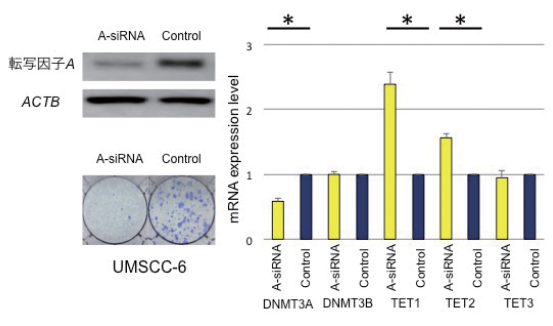


図3
転写因子Aはメチル化酵素、脱メチル化酵素の発現をコントロールする



主な発表論文

(1)Misawa K, Carey TE et al.: Clin Cancer Res. 2008
(2)Misawa Y, Misawa K et al.: Cancer. 2014
(3)Misawa K, Mochizuki D et al.: Oncotarget. 2016
(4)Misawa K, Imai A et al.: Oncotarget. 2017

新任職員の紹介

New Staff Introduction

総合人間科学講座（物理学）
教授
三浦 康弘

【専門分野】分子エレクトロニクス / 物理学

本年5月に総合人間科学講座（物理学）に着任致しました。浜松での生活は初めてですが、食べ物の美味しさ、陽の光の明るさが、幼少期を過ごした瀬戸内（山口、広島）にも似ており、懐かしさを感じ、気に入っています。

出身学科は物理学科（昭和61年東京理科大学理学部卒）ですが、研究対象は、脂質分子の単分子膜、及び、これらを人工的に積み重ねて作る多層膜です。通常、脂質の膜には電気が流れませんが、金属並みに電気が流れる膜を作ることができました。さらに、この膜の研究を進めていくと、これは、基礎物性としても面白いけれども、酵素や抗体といったバイオ分子と複合化してデバイスを作ると、もっと面白いのではないか、と考えるようになりました。このような時期に、医工連携で名高い浜松医科大学でチャンスをいただき有難く思っています。

分子の環境を、孤立（希薄溶液中）から相互作用がある状態（膜中）に変えると、驚くほど機能が向上し、驚かされることがあります。「やらまいか」の地、浜松で、様々な研究者の方と相互作用させていただき、医工学分野で社会に貢献するとともに、基礎教育を通して学生に物理の視点の面白さを伝えたいと考えています。

また、下手の横好きですが、スポーツ好きで、水泳のマスターズ大会に出場し、テニスも楽しんでいます。趣味の分野でもお声がけくださいますと嬉しく思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

内科学第三講座（循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野）教授
前川 裕一郎

【専門分野】循環器内科学

平成29年4月より内科学第三講座（循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野）に赴任いたしました、前川 裕一郎と申します。1995年に慶應義塾大学を卒業後、慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科学教室に入局し、大学病院および関連病院で研修および勤務後、カナダのトロントにあるトロント総合病院・トロント大学に留学致しました。留学先から慶應義塾大学循環器内科学教室に帰室後、約10年間にわたり主に心臓カテーテル業務を中心に大学病院での臨床・研究・教育業務に携わってまいりました。

今後、循環器内科学分野におきましては、カテーテルによる高度最先端医療の導入、循環器疾患を対象とした多施設共同臨床研究の実践および難治性希少疾患の診断・治療の実施を目指し、日々努力していきたいと考えております。血液・免疫リウマチ内科学分野におきましては、浜松市内はもとより静岡県全域の難治性希少疾患症例や治療に難渋している症例の積極的受け入れを引き続き行ってまいります。

若手医師の育成にも力を入れ、静岡県の医療レベルの更なる向上に貢献したいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医学系大学倫理委員会連絡会議を開催

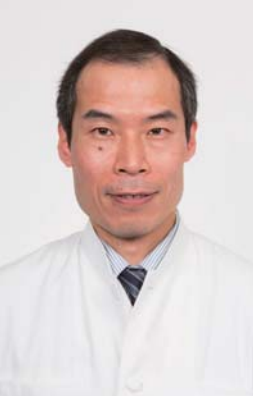
平成29年6月30日（金）～7月1日（土）の2日間、浜松市内にて、本学が当番校として第55回医学系大学倫理委員会連絡会議を開催し、約260人が参加しました。

初日の学術集会では、総会長として今野学長が挨拶をしました。その後、特別講演として、独立行政法人医薬品医療機器総合機構医療情報推進室長 宇山佳明氏による「電子診療情報を活用した新たな安全対策への取り組み」、厚生労働省医政局研究開発振興課長 森光敬子氏による「臨床研究における法制度」と2名による講演を行いました。

引き続き、シンポジウムⅠ「小児の臨床研究と倫理」、シンポジウムⅡ「個の治療と集団のヘルスケア」を実施し、活発な討論が行われました。

新任職員の紹介

New Staff Introduction



外科学第二講座（消化器・血管外科学分野）教授
竹内 裕也

平成29年3月1日付で、外科学第二講座（消化器・血管外科学分野）教授を拝命いたしました竹内裕也（たけうちひろや）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は神奈川県出身で平成4年に慶應義塾大学医学部を卒業し、今回はじめて浜松医科大学の一員に加えていただきました。外科学第二講座は上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、血管外科の4つの部門からなり、それぞれが専門とする疾患の診療にあたっております。私は消化器外科全般、とくに上部消化管外科を専門としておりますが、良悪性を問わず食道・胃の疾患の低侵襲治療と内視鏡診断・治療、進行がんに対する化学療法や放射線治療を組み合わせた集学的治療を積極的に行ってまいりました。浜松医科大学におきましても各診療科にご指導いただきながら最先端の治療に取り組んで参ります。また各自の専門領域だけでなく、広く外科学の知識と技量を兼ね備え、地域医療に貢献できる外科医の人材育成に励んで参ります。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

泌尿器科学講座 教授
三宅 秀明

本年4月より泌尿器科学講座の教授を務めております三宅秀明です。平成5年に神戸大学を卒業し、大学院、留学を経て、神戸大学病院およびその関連施設で勤務をしておりましたが、ご縁ありまして平成27年11月から本学にお世話になっております。皆様に暖かく迎え入れていただき、また色々とご指導いただきながら、非常に恵まれた環境で伸び伸びと仕事をさせていただいており、とても有難く思っております。

大学臨床医学系講座の使命として、教育、研究、臨床の3つの柱にバランスよく従事することが重要であると心得ておりますが、中でも臨床、特に当面は手術の充実に力を注ぎ、その成果を教育、研究にも反映させて行きたいと考えております。具体的には、軌道に乗りつつあるロボット支援手術に対する取り組みを一層発展させ、妥協無き低侵襲化を目指すとともに、大学病院ならではの拡大開放手術への挑戦も並行して推進して参る所存です。

今後も本学の発展に微力を尽くしたいと思っておりますので、皆様におかれましては泌尿器科学講座に対しまして引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

医化学講座 准教授
中島 光子

平成29年4月1日付で医化学講座の准教授を拝命いたしました中島光子と申します。平成13年に長崎大学を卒業後、同大形成外科学講座に入局し3年間の臨床研修を経験しました。その間に、頭蓋顎顔面や四肢の先天奇形を持つ患者様に触れる機会を得たことで先天性疾患の遺伝的要因について興味を持ち、平成16年から同大大学院遺伝学教室にて4年間遺伝性疾患の遺伝子解析について勉強させていただきました。この時、自分でも思っていた以上に基礎研究にはまってしまい、現在に至っております。

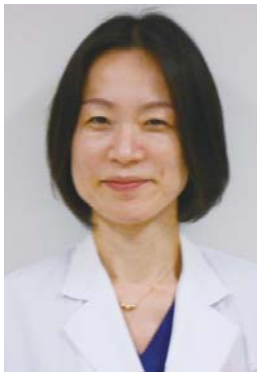
平成２０年からは東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターにて、1塩基多型を用いたゲノムワイド関連解析について学び、その後平成２４年からは横浜市立大学遺伝学教室にて次世代シークエンサーを用いた難治性希少疾患の原因遺伝子解析についての研究を行ってきました。

浜松医科大学ではこれまで得た知見をもとに、引き続き先天性疾患の原因遺伝子解析を行うとともに、ありふれた疾患の遺伝的リスクの解析や癌ゲノムの解析によるプレシジョンメディシンについても尽力し浜松医科大学におけるゲノム解析のさらなる発展に貢献できればと考えております。

放射線腫瘍学講座
准教授
小松 哲也

平成29年4月より放射線腫瘍学講座の准教授を拝命いたしました小松哲也と申します。私は平成6年に金沢大学を卒業して直ちに放射線医学教室に入局いたしました。大学病院で初期研修を行い、その後は複数の北陸の基幹病院で臨床経験を積みました。平成20年には縁あって神奈川県にある東海大学へ移り、臨床・教育・研究に従事してまいりました。この度このような経験を生かして、浜松医科大学の為にお役に立ちたいとの思いから赴任させていただくことになりました。当大学では現在、定位放射線治療や回転方式の強度変調放射線治療(Intensity-Modulated Radiotherapy: IMRTと呼ばれ腫瘍の形状に合わせて照射し周囲正常組織の放射線量を軽減できる治療法)など最先端の治療を制限なく受けることができています。更に、子宮頸癌の根治治療に必要な遠隔操作小線源治療装置や、甲状腺癌に対するヨード大量内用療法の為に必要なRI病棟などを有しており、幅広く放射線治療に対応できる体制となっております。

今後も、当大学において質の高い放射線治療が行われるよう微力ながらも尽力していきたいと思いますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。



生殖周産期医学講座
特任准教授
村林 奈緒

今年度新規開設された寄付講座である生殖周産期医学講座に、平成29年4月1日付けで着任いたしました。私は、浜松医科大学医学部を卒業後、長らく出身地である三重県で産婦人科医として働いておりましたが、この度縁あって母校に帰還させていただいた次第です。久方ぶりの浜松は、病院も新しくなり、大学の周辺も開拓され、以前過ごしていた頃とは趣きを異にするところも多いですが、懐かしい風景や人にもしばしば出会い感慨深いものがあります。

前任地では主に産科医として合併症妊娠や胎児異常、母体救急管理を行っておりました。生殖医療の発展を、産科医として目の当たりにするという立場でした。今後は、「生殖周産期」ということで、生殖医療にも携わり、「周産期予後を改善させる生殖医療」そして「生殖医療を踏まえた周産期管理」という両方の視点で研究と臨床に取り組んでいきたいと考えております。

どうかご指導の程を宜しくお願い致します。

地域看護学講座 准教授
水田 明子

平成29年4月1日付で地域看護学講座在宅看護学に着任致しました。浜松医科大学には平成20年に着任し、本年3月まで公衆衛生看護学の教育に携わって参りました。

平成8年に神奈川県立衛生短期大学の専攻科を修了した後、浜松市保健所に保健師として勤務致しました。当時は、超高齢社会に向け虚弱高齢者への支援が業務の中心でした。その後、地域の療養者への支援体制は介護保険法の制定や地域包括ケアシステムの導入により在宅医療ネットワークが整備され、保健師の業務は母子の虐待予防が主となりました。これからの在宅看護には、乳幼児から高齢者まで地域住民が安心して生活できる地域づくりに資する役割が求められます。自宅や施設などでの質の高い看護の提供と共に、地域保健医療の推進に貢献できる看護師・保健師の育成を目指したいと思います。

これまでの主な研究テーマは思春期のメンタルヘルスです。研究を始めた頃、子供が思春期に差し掛かり、またその頃から両親の身体の衰えが進み、ダブル介護や高齢介護者にも関心を持つようになりました。これまでの経験を活かして在宅看護の発展に努めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

新任職員の紹介

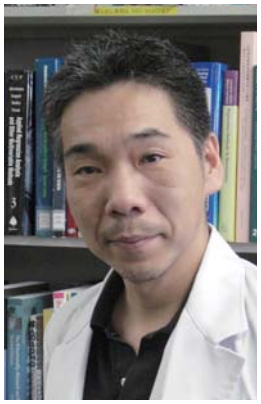
New Staff Introduction

光尖端医学教育研究センター
フォトニクス医学研究部
分子病態イメージング研究室 准教授
清水 広介

【研究分野】ドラッグデリバリーシステム（DDS）、分子イメージング

平成28年10月1日付で、光尖端医学教育研究センター・分子病態イメージング研究室の准教授として着任いたしました、清水広介と申します。出身は静岡県静岡市で、浜松は同じ県内ということもあり非常に馴染み深い場所です。また浜松医科大学は、高校生の頃に模試で第一希望大学として書いた記憶があります（実現はしませんでしたが）。

平成13年に同じ県内の静岡県立大学薬学部を卒業し、博士後期課程の途中で教員として着任いたしました。学部の研究室配属から教員在任まで一貫して医薬生命化学教室の奥 直人教授（現日本薬学会会頭）の指導のもと、リポソームを用いたドラッグデリバリーシステム（DDS）研究に取り組んでまいりました。DDSとは薬を必要な量、必要な時間、必要な部位に送達するための技術の総称であり、薬の副作用を最小限に抑えつつ、主作用を最大限発揮できるまさに薬物治療の理想を目指すものであると考えております。そんなDDSに魅了され、日々研究を続けております。本学への着任を機に、本技術を分子イメージングへと応用できればと考えております。また、DDSに興味がありましたらぜひ声をかけてください。学内の中では離れに在席しておりますが、少しでもお力になれればと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



子どものこころの発達研究センター
特任准教授
桑原 斉

【専門分野】精神医学

平成29年4月1日付で、子どものこころの発達研究センター特任准教授を拝命しました桑原斉と申します。

平成12年に医師になって以来、児童精神科の患者さんあるいは発達障害の患者さんを主な対象として、様々な診療所・病院あるいは行政・福祉的部署で臨床業務にあたっておりました。また並行して、臨床研究にも従事しておりました。

異動の話をいただく前から、発達障害関連の研究に関して、浜松医科大学の子どものこころの発達研究センター、精神医学講座及び児童精神医学講座は、国内のトップランナーだと認識しておりました。今回、本学での勤務の機会をいただけたこと、大変光栄だと思っていると同時に、身が引き締まる思いでもあります。

着任しまして3ヶ月程経過しましたが、アウトプットに対する厳しい姿勢に圧倒されております。しかしながら、このプレッシャーが、自分を成長させ、また結果として世の中に、良いアウトプットを返していくことにつながると信じて、努めております。

本学の臨床、教育、研究に、児童精神医学、精神医学の観点から少しでも貢献できるよう精進してまいりますので、皆様からのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

教育・研究スペースの再生と産学官連携施設の整備
～次世代を担う人材育成と最先端研究環境の構築に向けて～

平成29年度文部科学省の補正予算において、基礎臨床研究棟改修I期事業が採択されました。この事業は、Ⅲ期工区に分けて改修する計画でありI期整備として、基礎臨床研究棟中央部分の4,740㎡を改修します。また、同様に地域科学技術実証拠点整備事業にも採択され、医工連携拠点棟を整備することとなりました。医工連携拠点棟は新築2,584㎡と既存部分（臨床研究棟（別館））1,384㎡を一体化することで、医療と工学技術分野の産・学・官が連携する建物として生まれ変わります。

さらに一般教育部門の集約化に加え、学生の高い人間力を育成するために、自己財源で総合人間科学・基礎研究棟1,359㎡を整備します。

これらの事業は、平成29年度末の完成を目指して進めています。

基礎臨床研究棟、総合人間科学・基礎研究棟は、地域医療の中核を担う医師や質の高い専門医、医学研究者等の人材育成や、産学官連携による共同研究等のプロジェクト研究の推進、最先端医療に関する新たな学術的研究分野・研究シーズの創出を目的に整備を行います。

医工連携拠点棟は、地元企業との連携を進め、持続的・連鎖的な光技術の具現化を推進し、地域イノベーション・エコシステム形成プログラムを医療・医学の面から強力に推進するために整備を行います。なお、建物の一部に先進機器共用推進部を配置し、実験装置を集中化して共用を図ることで、地域企業や自治体との開発・協力・研究体制を構築することができ、より一層の教育・研究体制の充実が期待されます。

主催学会シンポジウム symposium

第46回日本小児外科代謝研究会

小児外科 特任准教授 川原 央好

平成28年10月27日に埼玉県大宮ソニックシティで第46回日本小児外科代謝研究会を開催させていただきました。平成26年に2種類の新規医薬品半消化態栄養剤が15年ぶりに発売され、在宅経腸栄養管理の幅が広がってきました。このような背景をもとに第46回日本小児外科代謝研究会では「小児栄養の現状と今後の展望」をメインテーマとさせていただき、150人を越える参加者がありました。

シンポジウム「n-3系脂肪酸を含めた脂肪製剤の臨床的意義と問題点」でn-3系脂肪酸製剤の現状と今後の展望に関して討論されました。近年、腸内細菌叢の異常が様々な疾患と関連していることが明らかにされて注目を集めており、滋賀医科大学栄養治療部教授 佐々木雅也先生にランチョンセミナー「腸内細菌叢からみた経腸栄養管理―プレバイオティクスとプロバイオティクスの活用―」の講演をしていただきました。腸内microbiomeは乳児期に形成されますが、その異常は成人期の高血圧症、高脂血症、脳卒中、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の発症と関連することが報告されています。タイムリーな話題であったため、180人以上の参加者があり大盛況でした。

一般セッション「NST」「新生児乳児」「胃瘻栄養管理」「腸管不全」「カテーテル・欠乏症」でも様々な報告がされ、在宅栄養管理の普及とともに胃瘻栄養が急速に普及しているため、それに関する様々な合併症が起こっていることも新しい発見でした。

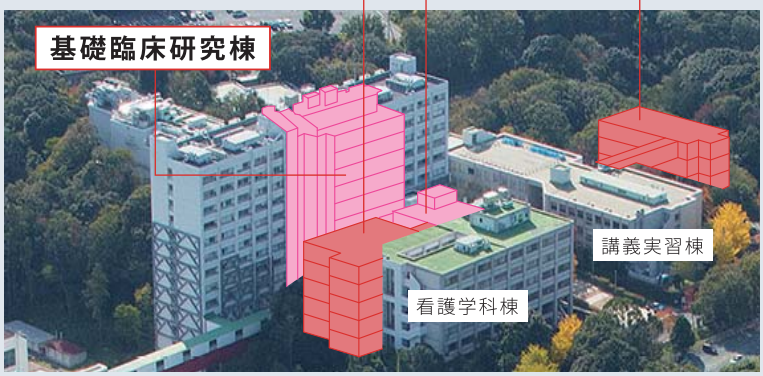
第94回日本生理学会大会

神経生理学講座 准教授 秋田 天平

平成29年3月28日（火）～30日（木）にアクトシティ浜松にて、第94回日本生理学会大会を本学2つの生理学講座が合同で主催しました（大会長：浦野哲盟・福田敦夫、事務局長：秋田天平）。本学による主催は平成9年（1997年）の第74回大会以来2回目でした。大正11年（1922年）より毎年開催されてきたその回数が示す通り、本大会には長い歴史があり、身が引き締まる思いでした。今大会のテーマは、生理学が対象とする生命の動態を浜松の基幹産業（音楽・光・自動車）になぞらえ、「分子が奏でるハーモニーと躍動する身体機能：照らそう生命の理（ことわり）」としました。最終的に海外18か国からの57名を含む1,606名の参加者を迎え、英語を大会の主言語として活発に議論が展開されました。

プレナリーレクチャーにフランスからYehezkel Ben-Ari氏（写真上）、フィンランドからKai Kaila氏、ベルギーからPeter Carmeliet氏をお招きし、神経発達とその障害による疾患、そして血管新生に関する世界最先端の知見についてご講演頂きました。その他、特別講演や大会企画及び企業共催シンポジウム等で多くの特色あるプログラムを実施し、総演題数は一般演題含めて900題となりました。また、大会前日には市民公開講座「知って防ごう血栓症」を開催し盛況でした。

国際色豊かな今大会を成功裡に終えたことで、歴史ある本大会の今後の益々の発展への一翼を担うことが出来たのではないかと思っております。



赤　色：新築建物
ピンク：改修建物

総合人間科学・基礎研究棟

構造・階数	新築：鉄骨造３階建
新築延面積	1,359㎡

医工連携拠点棟

構造・階数	新築：鉄骨造５階建 改修：鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造５階建
新築延面積	2,584㎡
改修延面積	1,384㎡

基礎臨床研究棟

建　築　年	1976年（経年41年）
構造・階数	改修：鉄骨鉄筋コンクリート造 ９階建-地下５階
改修延面積	15,831㎡

ニカラグアでの国際サービス・ラーニング

International Service-learning in Nicaragua

総合人間科学講座（英語）准教授 クラモト・クリスティーン Christine Kuramoto

I teach medical English and am always trying to think of ways for students to actively use the language they are learning. The International Service-learning in Nicaragua team trips began from my hope to give the students an opportunity to work with English speaking health care workers to actually help a community. I also wanted students to be able to use the knowledge they were gaining in their medical classes to help people in a community that really needed the medical skills and knowledge the students have. Service-learning is a type of learning that offers both the recipient (in this case the villagers in San Ramon Nicaragua) and the students to gain something very important from the experience.

In Nicaragua, we support the work of Corner of Love (COL), an NPO based in the USA and Nicaragua (Central America) that focuses on bringing healthcare to the impoverished villages of the San Ramon area. Each year, we spend about one week in Nicaragua and participate in 4 clinics during our stay. We usually carry out three mobile clinics in rural locations, setting up the clinic in a church or school in a village. Our 4th clinic is now held at the Plaza de Bondad, near La Lima River which was built by COL and completed in 2015. In addition to our team, COL hosts teams from the USA, Canada, and Bermuda to provide healthcare to more than 50 villages throughout the year. It is great to know that there are always teams before and after us that continue to provide for the villagers when we aren't there.

Students of all levels can participate in a team to Nicaragua because there are many jobs to do. Some of the jobs we undertake do not require any medical knowledge, such as playing with the children that are waiting at the clinic, selecting clothing items to give to families in need, running messages between the medics and the pharmacy workers, and measuring patients' height and weight. Other jobs require more medical knowledge, such as examining patients, taking blood pressure, prescribing medicines, and filling prescriptions in the pharmacy. It takes many hands to run a mobile clinic, so there is something for everyone to do!

Our next trip in 2018 will be my 10th trip to Nicaragua. I never imagined that I would get a chance to be a part of an amazing experience like the Nicaragua service-learning trip for so many years. I have seen how this trip has been a life changing experience to students and continues to bring so much hope to the people of Nicaragua through the ongoing efforts of COL.

My dream to take my students out into the world and let them see how much they can connect and communicate with others and how they can work to make the world a little bit better for someone in need has come true!

私は医学英語を教えながら、学生たちが実際に使える方法を常に考えています。選択実習「国際サービス・ラーニング」はニカラグアで行うチーム研修で、英語を話す医療従事者と働く機会を作るために始めました。習得した医学知識を地域支援活動で活用することも目的のひとつです。

ニカラグアでは、アメリカ合衆国とニカラグアを拠点とする非営利団体「Corner of Love (COL)」がサン・ラモン地区の貧村へ医療提供しています。毎年私たちは約1週間の滞在中に、教会や学校に設置する移動診療所3か所と、2015年にCOLがリマ川付近に建設した「Plaza de Bondad」の計4つの診療所を回ります。COLは英国、カナダ、バミューダ諸島からのチームも受入れており、年間50以上の村を継続的に支援しています。

学生なら誰でもこの研修に参加できます。治療を待つ子供たちと遊んだり、家族ごとに必要な衣料を選んだり、医師と薬局との遣いや、身体測定など、医学知識の必要ない仕事も多くあります。診察、血圧測定、薬の処方、処方箋のファイリングといった仕事は医学知識が必要です。診療所の運営には多くの手が必要で、仕事は沢山あります。

2018年の研修は、私にとって10回目となります。こんなに長く続けられるとは想像もしませんでした。この研修が学生の人生を変える経験となり、またニカラグアの人々に希望を届ける様を見てきました。世界へ一歩踏み出すことで、どれだけ人と理解しあえるのか、そしてほんの少しだけ世界をよくするために自分にできることがあることを知ってもらいたいという私の夢が叶いました。

Corner of Loveホームページに私たちのJapan chapterがあるので、是非ご覧ください。 http://corneroflove.org/where-we-serve/japan-chapter/

ふこうで

ポルトガルへの研究留学

医学科5年 秋山 萌

私はHOPEという国際交流サークルに所属しています。海外に興味のある学生たちが集まり、提携校からの留学生やIFMSA（国際医学生連盟）を介した交換留学生を毎年受け入れている団体です。とくに交換留学に関しては、来日前後の書類管理、留学生の送迎や寮の手配、また、受け入れてくださる医局や研究室の先生方との橋渡しなどを行いつつ、歓迎会を開いたり、留学生と一緒に出掛けて周辺を案内したりしています。このようにIFMSAの交換留学では、様々な国で学生が主体となって受け入れの作業を行っています。私もこの3月、交換留学でポルトガルの医学部の研究室に留学させていただきました。

▲ トラム（路面電車）とリスボンの街並み

私は、ポルトガルの第二の都市ポルトに1ヶ月滞在し、ポルト大学医学部の遺伝学研究室にお世話になりました。研究内容は男性不妊の遺伝学を選択しましたが、病棟から紹介された様々な患者の遺伝子診断もその研究室で行っているため、基本的には研究対象かどうかは問わず、プレパラート作りをしたり、染色体を観察して1番から順に分類して並び替えたり、などといったルーティンワークを日々こなしていました。その中で、実際に自分の血液を採って固定、分離、染色し、染色体を観察する機会もいただきました。遺伝学の教授やその他のスタッフの方たちは、私にいろいろな経験をさせようとしてくれて本当にありがたかったです。私は3年次の基礎配属での実験や研究の経験がなかったため、基本的な手法で分からないこともたくさんありましたが、私が理解できない時は何度も丁寧に教えてくださいました。また逆に、英語の苦手な方でも一生懸命に笑顔で話しかけてくれたり、週末の旅行の相談まで乗ってくださったりと、友好的で温かい方たちばかりでした。最終日には感謝をこめてお好み焼きを作って持っていきました。

▲ 同居人の学生が地元のブラガと、その近くのギマランイス（ポルトガルが始まったとされている街）を案内してくれました

滞在中は学生が下宿しているアパートに住まわせてもらっていました。同居人は、合気道を習っていて非常に日本の文化に興味を持っている女子学生でした。彼女とは、お互いに自分の国の料理を作りあったり、地元を案内してもらったり、家族と会わせてもらって一緒に食事をしたりと非常に濃い時間を過ごさせてもらいました。中でも印象深いのは、ポルトガル人の司祭の目線から描かれた江戸時代初期のキリシタン弾圧がテーマの映画、「沈黙」を一緒に観たことです。ポルトガルは90%の国民がカトリックを信仰している国で、彼女もまたカトリック教徒。この時彼女に対して感じた、罪悪感のような言い訳したくなるような後ろめたさを私はずっと忘れられないと思います。鑑賞後も宗教観の違いやお互いの国の歴史について話すことができ、歴史は語り継がれていくべきものなのだと痛感しました。ポルトガルでポルトガル人とこの映画を観られたことは、一生私の心に残る出来事になると思います。

▲ ポルト大学医学部の学生が開いてくれた歓迎会

ところで、私の滞在していたポルトは2017年の欧州の人気旅行先ランキングで1位にもなっているほど、ヨーロッパ圏内や韓国、中国などではメジャーな観光地だそうです。特に世界遺産にもなっている歴史地区は本当に美しく、ドウロ川の向こうから眺めるドン・ルイス橋との景色は圧巻でした。リスボンやポルトなどの大きな都市でも高層ビルはほとんどなく、古い建物や美しい街並みが残る素朴で情緒豊かな土地でした。

▲ よく晴れた日、夕焼け、夜景…日によって時間によっていろいろな美しい姿を見せてくれるポルトの街並み

1ヶ月間、美しい街で温かい人たちに囲まれてたくさんの刺激を受け、ここには書ききれないほどの貴重な経験をたくさん得られました。まず何よりも、この留学にご理解とご協力をくださった皆様に心から感謝申し上げます。同時に、1ヶ月間で自分の勉強不足を痛感することも多々ありました。今後の課題として見つめ直し、もっともっと成長していきたいです。

University News & Events 大学ニュース

平成29年3月1日～9月30日

各種行事 Events

3月

3月1日(水) 国際交流のつどい

本学の外国人留学生・研究者がご支援いただいている地域の方々と交流するとともに、海外の協定校で実習した学部学生の体験発表等を行いました。

3月10日(金) 新歓指導講話及び学生との意見交換会

「新入生歓迎に対するマナー・飲酒について」と題して阪原学生委員会委員長による講話を行いました。また、主体的な学修を促すための教育環境の整備を目的とした学生と職員との意見交換会を行いました。

3月12日(日) 入学者選抜試験

平成29年度浜松医科大学入学者選抜試験(後期日程)を実施しました。

3月13日(月) 学位記授与式

平成28年度学位記授与式を行い、医学部184名(医学科119名、看護学科65名)、大学院医学系研究科博士課程23名、修士課程21名及び論文博士9名に学位記を授与しました。

4月4日(火)～11日(火) 新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーション(ガイダンス、健康診断、合宿研修、情報リテラシー、福祉施設体験学習など)を実施しました。

4月7日(金) スチューデントドクター称号付与式

医学科5年次生125名に「浜松医科大学スチューデントドクター」の称号を付与しました。

5月

5月10日(水) FD研修会

「成果基盤型学習とアクティブラーニング」と題して医学教育推進センター五十嵐寛 准教授による講習会を行いました。

5月12日(金)～13日(土) 滋賀医科大学との交流会

滋賀医科大学において第42回滋賀医科大学との交流会を開催しました。
本学は16種目中6勝8敗2引き分けで、通算成績は、14勝22敗6引き分けとなりました。

6月7日(水) 開学記念行事

浜松医科大学基金創設記念式典と浜松医科大学開学記念日における記念行事を行い、約200名が出席しました。
開学記念式典では今野学長による挨拶の後、大阪大学産業科学研究所副所長 永井健治氏による特別講演『浜松医科大学メディカルフォトニクスコースと私』を行いました。続いて、名誉教授称号授与式、感謝状贈呈式、浜松医科学シンポジウム表彰式を行いました。この記念式典で本学マスコットキャラクター「はんだやまっぴー」がデビューしました。

名誉教授称号授与者	笹倉裕之氏	(前 総合人間科学講座物理学教授)
	三浦直行氏	(前 医化学講座教授)
	林 秀晴氏	(前 内科学第三講座教授)
	大園誠一郎氏	(前 泌尿器科学講座教授)

6月8日(木) ふじのくに女性医師支援センター看板上掲式

本学附属病院を拠点に、全県下の女性医師に対し就業支援・キャリア形成支援を行うため、設置されました。
山口静岡県健康福祉部長をはじめ担当県職員と意見交換会を開催した後、看板上掲式を行いました。

6月19日(月) 知財セミナー「特許基礎ラウンド2017」

特許の基礎知識や、医学研究におけるラボノートの重要性と書き方、活用術について、職員及び学生を対象にセミナーを開催しました。

8月1日(火)・9日(水) オープンキャンパス

医学科と看護学科のオープンキャンパス(大学説明会)を行いました。全国から650人の高校生が参加し、カリキュラムの特徴、入学者選抜方法の説明、模擬授業、在学生・卒業生の講演、個別相談などを行いました。

8月2日(水) 高校生1日ナース体験

市内の高校生25人が「1日ナース体験事業」に参加しました。高校生は看護師のユニフォームに着替え入院患者の食事、着替えの介助などを行いました。

8月7日(月) こころざし育成セミナー

医学部進学を目指す県内の高校1・2年生67名が「こころざし育成セミナー」に参加しました。松山病院長のあいさつの後、本学の3名の講師が、仕事の内容や医療の現状について説明しました。

平成29年度 4月

4月4日(火) 入学式

平成29年度入学式を行い、医学部188名(医学科115名、医学科2年次編入学5名、看護学科60名、看護学科3年次編入学8名)、大学院医学系研究科博士課程33名及び修士課程16名が入学しました。

3月27日(月) 永年勤続者表彰式

永年勤続表彰式を行い、永年にわたり医療並びに本学の教育に貢献された28名の方々に表彰状と記念品が授与されました。

3月28日(火) FD研修会

「アクティブラーニングの観点からのPBLチューターの役割」と題して医学教育推進センター五十嵐寛准教授による講習会を行いました。

6月

5月19日(金) 事務局職員SD(職能開発)研修

事務職員や技術職員などを対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みとして、学校法人濱名学院常務理事・関西国際大学事務局長横田利久氏による「改革を推進する職員に向けて浜松医科大学の皆さんに伝えたいこと」と題した講演を行いました。

5月20日(土)～7月23日(日) 東海地区国立大学体育大会

8大学による第66回東海地区国立大学体育大会(主管校:静岡大学)が行われました。

■総合成績
男子7位、女子6位
優勝:硬式テニス部(女子)
空手道部(女子)
2位:空手道部(男子)
3位:硬式テニス部(男子)

5月29日(月) 留学生のための交通安全教室

静岡県交通安全協会から交通指導員を招き、留学生対象の交通安全教室を開催しました。

6月5日(月)～16日(金) 授業開放

県内の高校生を対象に、平成29年度専門基礎科目等授業開放を実施しました。(参加者延べ470名)

7月

7月14日(金) 病院サマーコンサート

学生管弦楽団によるコンサートを開催し、患者さんやご家族、大勢の方が来場しました。

7月20日(木) 院内マジックショー

学生奇術部による院内マジックショーが行われ、患者さんとそのご家族の歓声や拍手で盛り上がりました。

7月21日(金)～8月14日(月) 富士山衛生センターで登山をサポート

富士山8合目に夏季期間中開設される、富士山衛生センターの診療業務に医師と学生がペアを組み、交代で従事しました。

7月27日(木) 情報セキュリティセミナー

静岡県警察本部担当職員を講師に迎え、最近増加しているサイバー攻撃について講演を行いました。

8月

8月1日(火) FD研修会

『「反転授業」と「ヒト型ロボット」による新しい大学教育について』をテーマに、静岡大学情報基盤センター長 井上春樹氏による講習会を行いました。

8月1日(火) 病児・病後児保育室「ふわり」運用開始

育児支援体制を整えることにより、女性職員だけでなく、業務を代替していた職員の負担も軽減することが期待でき、本学にとって大きなメリットとなります。

8月8日(火)～20日(日) 西日本医科学生総合体育大会

第69回西日本医科学生総合体育大会(代表主管校:山口大学医学部)が行われ、44大学が参加しました。

■総合成績 16位
3位:準硬式野球部

8月24日(木)・31日(木)・9月5日(火)・6日(水) 地震防災訓練及び消防訓練に伴う事前講習会

災害医療におけるCSCA TTTの重要性、トリアージタグの書き方、災害時の情報通信、初期診療について全4回の事前講習会を行いました。

9月

9月9日(土) 地震防災訓練及び消防訓練

南海トラフ地震の発生を想定し、自らの安全を確保しつつ速やかに防災体制に移行するという一連の対応行動を身に着けることを目的とした地震防災訓練及び消防訓練を行いました。

9月26日(火) 学位記授与式

大学院医学系研究科博士課程5名、論文博士4名に学位記を授与しました。

University News & Events
大学ニュース

サークル活動の記録

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

準硬式野球部	●東海地区国立大学体育大会 出場 ●西日本医科学生総合体育大会 2回戦敗退 ●秋季県内リーグ 6位
軟式テニス部	●春季東海医歯薬大会 団体　決勝リーグ進出 ●西日本医科学生総合体育大会 個人戦 ベスト64
男子バスケットボール部	●秋季東海医歯薬大会 出場 ●近畿・中国・四国医科男子学生バスケットボール大会 4位 ●春季東海医歯薬大会 準優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 4位
女子バスケットボール部	●春季東海医歯薬大会 出場 ●五大戦 出場 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬大会 2回戦敗退
男子バレーボール部	●西日本医科学生総合体育大会 ベスト16 ●冬季東海リーグ 3位
女子バレーボール部	●近畿医科学生女子バレーボール大会 出場 ●近畿医療系女子バレーボール大会 出場 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●女子バレーボール新人戦 出場 ●日本医歯薬女子バレーボール大会 出場
バドミントン部	●西日本医科学生総合体育大会 男子シングルス ベスト16、ダブルス ベスト16 女子ダブルス ベスト16 ●東海医歯薬科学生バドミントン大会 男子シングルス ベスト8 女子シングルス ベスト16、ダブルス ベスト16 ●近畿東海医科学生バドミントン大会 男子シングルス ベスト16、ダブルス（2ペア） ベスト16 女子シングルス ベスト32
サッカー部	●静岡県学生サッカートーナメント 優勝 ●春季東海医歯薬学生大会 優勝 ●東海地区国立大学体育大会 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬学生大会 優勝 ●浜松医科大学 学生表彰
ラグビー部	●東海医歯薬学生大会 4位 ●西日本医科学生体育大会 ベスト8
ハンドボール部	●関西医歯薬秋季リーグ 2部残留 ●西日本医歯薬科学生ハンドボール選手権大会 出場
剣道部	●中部医歯薬剣道大会 男子団体 3位 ●東海地区国立大学体育大会 男子個人 3位 ●若獅子杯 男子団体 準優勝 ●昇段審査 四段合格
空手道部	●東海地区国立大学体育大会 女子 2位 ●西日本医科学生総合体育大会 女子 2位 ●西日本コメディカル大会 男子個人 形 優勝、3位 ●浜松市スポーツ祭 男子個人戦 2位 ●西部地区大会 男子個人戦 3位、男子個人 形 3位 ●東海学生空手道選手権 年3回出場 ●杉浦錬成大会　出場、大会補助
ワンダーフォーゲル部	●富士山八合目の衛生センターにおける医療補助に従事
ヨット部	●YFMSヨットセーリングレース、ヨット運営協力 ●小春セーリングレース 3位、運営協力 ●西日本医科学生総合体育大会　総合12位 470級 12位、スナイプ級 10位 ●学内新入生試乗体験会 ●学内試乗会 ●OBレース ●浜松市スポーツ祭 ヨット部門 3位、運営協力
漕艇部男子	●中部学生選手権 新人男子舵手付きナックルフォア 2位 ●静岡県選手権 一般男子舵手付きフォア 優勝 男子ダブルスカル 優勝 ●近畿医科学生漕艇選手権 一般男子舵手付きフォア 3位 新人男子舵手付きフォア 優勝 男子ダブルスカル 準優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 準優勝 一般男子舵手付きフォア 準優勝 新人男子舵手付きフォア 準優勝 男子ダブルスカル 準優勝
漕艇部女子	●静岡県選手権 女子舵手付きクオドルプル 優勝 ●近畿医科学生漕艇選手権 女子舵手付きクオドルプル 優勝 ●メディカルレガッタ 一般女子舵手付きクオドルプル 3位 新人女子舵手付きクオドルプル 7位
ゴルフ部	●西日本医科学生総合体育大会 男子団体 30位 ●夏季西日本医歯薬新人戦 個人 78位 ●春季西日本医歯薬オープン戦 団体 14位 ●関西国公立戦 団体 9位
弓道部	●中部ブロック医科学生弓道大会 男子団体 準優勝 女子団体 準優勝、女子個人戦 3位 ●静岡県下学生弓道選手権夏季大会 男子団体 準優勝、3位、男子個人戦 5位 女子個人戦 3位、5位 ●西日本医科学生総合体育大会 男子個人戦 準優勝、3位、4位 ●西日本看護学生弓道選手権大会 団体戦 優勝 ●全日本医科学生体育大会王座決定戦 団体 優勝、最多的中賞、個人 9位
弓道部	●東海医歯薬科学生弓道大会 男子団体 優勝、個人 6位　女子個人 3位、6位 ●静岡県下学生弓道選手権春季大会 男子団体 3位、個人 準優勝 女子団体 優勝、準優勝、3位、個人 3位、4位 ●浜松医科大学 学生表彰（男子）
陸上競技部	●東海学生陸上競技対校選手権大会 男子 400mハードル 出場 ●関西医科学生対校陸上競技選手権大会 男子 110mハードル 準優勝、400mハードル 優勝（大会新） 三段跳 3位 女子 3000m 3位、走高跳 3位、走幅跳 3位、フィールドの部 3位 ●西日本学生陸上競技対校選手権大会 女子 棒高跳 8位 ●西日本医科学生総合体育大会　男子 ハンマー投 準優勝 女子 走幅跳 優勝、ハンマー投 準優勝、フィールドの部 2位 ●全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会 女子 棒高跳 優勝、三段跳 準優勝、3位、走幅跳 準優勝 ●関西医歯薬科学生対校陸上競技大会 男子 110mハードル 準優勝、400mハードル 優勝 ●浜松医科大学 学生表彰
水泳部	●西日本医科学生総合体育大会 入賞 ●西日本コメディカル学生水泳競技大会 入賞 ●東海地区国立大学体育大会 入賞
卓球部	●西日本医科学生総合体育大会 男子シングルス 17位 ●西日本医歯薬学生卓球大会 女子ダブルス 3位
合気道部	●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●昇段審査、他大との合同稽古 ●医大祭にて演武
茶道部	●医大祭にてお茶会を開催
邦楽部	●医大祭にてNursing Cafe"和"での演奏会開催
四つ葉	●浜松筋ジストロフィーの会へのボランティア参加 ●車イスの方の会「集まる会」へのボランティア参加 ●天竜病院児童精神科でのボランティア参加 ●「あひるの会」へのボランティア参加 ●医大祭でのバザー ●清明寮での学習支援ボランティア ●浜松市「青少年の表彰」善行奨励賞 受賞 ●浜松医科大学 学生表彰
軽音部	●学食ライブ ●月例ライブ ●他大との交流ライブ ●医大祭ライブ ●天下一部道会 2日目投票 1位 ●東医音（東日本医学部の交流ライブ） ●卒業式謝恩会での演奏
管弦楽団	●第36回定期演奏会（アクトシティ 中ホール） ●本学附属病院、浜松日本赤十字病院及び遠州病院でのコンサート ●本学入学式、本学卒業式、学位記授与式、 解剖体慰霊祭、医大祭における演奏 ●浜松市「青少年の表彰」善行賞 受賞
東洋医学研究会	●週2回の東洋医学関連の講義 ●ツムラ主催の漢方セミナーへの参加 ●東百会への参加による他大学との交流 ●医大祭への出店
奇術部	●本学附属病院院内マジックショー ●職員宿舎自治会夏祭りでの公演 ●医大祭にてマジックショー ●浜松科学館イベント 出展 ●福祉施設（デイサービス&ショートステイまりも）での公演 ●本学附属病院看護部スタッフへのマジック指導 ●浜松医科大学 学生表彰
つながり	●若宮保育園、みどり保育園、 初生小学校放課後児童会にて保健教育の実施 ●医大祭での展示・子どもたちに 「お医者さん体験」をしてもらう模擬診察を実施 ●ゆずりは学園、西遠女子学園にて性教育のピアエデュケーション ●浜松市「青少年の表彰」善行賞 受賞
囲碁将棋部	●中部新人王戦 ベスト8
国際交流サークル HOPE	●IFMSA留学生の受け入れ ●IFMSA-Japan LTP （基礎研究留学担当トレーニングプログラム）参加 ●国際交流の集い参加 ●IFMSA留学への参加（チェコ、ポルトガル）
うなぎの会	●しずめでぃ主催 社会人×学生交流会・合宿への参加 ●定例会の開催 ●医大祭での多職種紹介の展示物の作成
災害支援サークル Luce	●ボランティアセンター（附属病院支援のための） 運営マニュアル作り、訓練避難生活体験、 大学生向け持ち出し袋作り ●救命技術の勉強会 ●東北・熊本の訪問・支援など 熊本地震において、募金活動、現地でのボランティア、 現地診療所との連携による物資支援 ●附属病院での災害時訓練への参加 （模擬患者、ボランティアセンター運営） ●浜松市災害時看護研修会への模擬患者としてのボランティア ●ウェルシーズンでの新入生へのBLS講習会のサポート ●三方原自治会と連携しての避難所体験プロジェクト進行中 ●北区Deまつりにて、子供向け防災教育のブース出展 ●浜松市「青少年の表彰」善行奨励賞 受賞 ●浜松医科大学 学生表彰
Hamamatsu Medical Simulation Training-ship(HMST)	●親子セミナーの実施 ●セミナーに向けたポスター作りと広報、 スケジュール作成、練習

ヨット部
Yacht Club

設立
1974年

部員数
22名

活動日程
週2回（土・日）練習

医学科4年
中村 侑樹

ヨット部の一日と来年のお知らせ

ヨット部は現在毎週土曜と日曜の週2回。3〜8月と10月の間、浜名湖で活動をしています。ヨットと聞くと優雅で楽な競技と想像されるかもしれませんが、実際は想像以上に大変なスポーツです。ここからヨット部の練習日の一日を紹介します。まず朝、大学に部員は集合します。そこで配車を決めて浜名湖の艇庫に30分以上かけて向かいます。艇庫に到着したら自分が乗る船のセッティングを行います。このセッティングがうまく行われないとヨットは全くスピードがでません。そのため部員も真剣にセッティングを行います。セッティングが完了したらミーティングを行い、今日の練習の内容や目標を決めます。その後出艇し、お昼休憩を挟み午後も練習した後、再度ミーティングで練習の反省を行います。その後、船の片づけを行い帰ります。これで一日の練習は終わりです。ヨットは自然を相手にする競技であるため、1日たりとも全く同じ状況の練習にはなりません。それがヨットの大変なところであり、楽しいところでもあります。

最後に告知をいたします。来年私たちが活動する浜名湖で、夏の盆の時期に西医体ヨット部門の大会が開催されます。浜名湖で開催されるのは4年に一度しかありません。機会があればぜひ観戦にきてください。

CLUB Introductions サークル紹介

国際交流サークルHOPE
Hamamatsu Overseas Project of Exchange

ちらし寿司会では見た目の可愛さに喜んでくれました。▶

▼流しそうめん。お箸の使い方に苦戦していました。

茶道を体験しました。お抹茶とお菓子は美味しいけれど正座は難しいそうです。▶

設立
2009年

部員数
80名

活動日程
週1回(金) ミーティング
留学生滞在時

医学科4年
南沢 若奈

HOPEの国際交流活動について

こんにちは、浜松医科大学国際交流サークルHOPEです。HOPEはIFMSA-Japan（国際医学生連盟）の臨床研究・基礎研究交換留学部門に加盟しており、本学の学生に国際交流の場を提供することを目的に活動しています。活動内容は主にIFMSAを介した交換留学生と本学提携校からの留学生との交流、国際交流の集いやランチミーティングなど本学主催の国際交流関連の行事への参加となっています。

交換留学生を受け入れるIncomingでは、留学生と配属先の医局または研究室とのやりとりをサポートし、留学生の滞在中は寮の準備や送迎など身の回りのお世話をします。また、留学生に日本文化を体験してもらえるようにSocial Programと呼ばれるおもてなし会を開いたり、一緒に観光したりします。その一方、本サークルの学生が留学するOutgoingでは海外の医学部の臨床医学または基礎医学研究室へ配属され、他国の医学生の勉学への熱心さに刺激を受けたり、英語での勉強や生活の難しさを実感したりと充実した時間を過ごします。2016年度はフィンランド、トルコ、チュニジアから留学生を受け入れ、本学からはチェコ共和国とポルトガル（P12参照）へ留学しました。

最後にHOPEの活動をご理解してくださり、留学生の受け入れに協力してくださる先生方に熱く御礼申し上げます。留学生が浜松医科大学での生活に満足してまた戻ってきてくれるように、留学先の方々が浜松医科大学に興味を持ってくださるように、これからもメンバー一同活動に力を入れて参ります。今後ともよろしくお願い致します。

University News & Events
大学ニュース

PRIZE WINNERS

学会賞等受賞

賞の名称	受賞年月日	受賞者	受賞内容(研究題目)
第12回日本医学シミュレーション学会優秀演題賞	平成29年3月19日	医療機器管理部 シミュレーションセンター 臨床工学技士 市川 美智華	造影CTによるアナフィラキシー様反応を想定した急変対応トレーニングの有用性－放射線部勉強会にオペレータとして参加した事例－
第90回日本産業衛生学会優秀ポスター賞	平成29年5月13日	地域看護学講座 教授 巽 あさみ	若年女性労働者の不眠に対する包括的睡眠改善プログラムの効果
2017年度日本質量分析学会会誌賞	平成29年5月18日	光尖端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部 光イメージング研究室 特任研究員 Gustavo A Romero-Perez 細胞分子解剖学講座 特任助教 武井史郎 光尖端医学教育研究センター フォトニクス医学研究部 光イメージング研究室 准教授 矢尾育子	Imaging Mass Spectrometric Analysis of Neurotransmitters: A Review. Mass Spectrom(Tokyo).2014;3(Spec Iss 3):S0049
第11回頭頸部癌基礎研究会優秀論文賞功労賞	平成29年6月7日	耳鼻咽喉科 講師 三澤 清	頭頸部癌におけるエピジェネティック解析に関する継続的な研究
第22回浜松医科大学同窓会松門会 学術奨励賞	平成29年6月7日	小児科学講座 助教 夏目 統	Two-step egg introduction for prevention of egg allergy in high-risk infants with eczema(PETIT): a randomised, double-blind, placebo-controlled trial. Lancet 389: 276-286, 2017.
第22回浜松医科大学同窓会松門会 学術奨励賞	平成29年6月7日	皮膚科 講師 藤山 俊晴	Topical application of a vitamin D3 analogue and corticosteroid to psoriasis plaques decreases skin infiltration of T_H17 cells and their ex vivo expansion. J Allergy Clin Immunol 138: 517-518.e5, 2016
第22回浜松医科大学同窓会松門会 学術奨励賞	平成29年6月7日	耳鼻咽喉科 講師 三澤 清	Prognostic value of aberrant promoter hypermethylation of tumor-related genes in early-stage head and nek cancer. Oncotarget 7: 26087-26098, 2016.
第22回浜松医科大学同窓会松門会 学術奨励賞	平成29年6月7日	腫瘍病理学講座 特任研究員 井上 裕介	Clinical significance of PD-L1 and PD-L2 copy number gains in non -small-cell lung cancer. Oncotarget 7: 32113-32128, 2016.
第37回日本弱視斜視学会中川賞	平成29年6月16日	眼科 助教 古森 美和	Evaluation of surgical strategy based on the intraoperative superior oblique tendon traction test
第60回関西胸部外科学会学術集会case presentation award最優秀賞	平成29年6月22日	外科学第一講座 助教 高橋 大輔	術後7年で再手術した大動脈弁位第3世代ブタ生体弁の1例
第38回日本光医学・光生物学会奨励賞	平成29年7月21日	皮膚科学講座 研究生 池谷 茂樹	抗真菌剤ボリコナゾール投与中に生じた光線角化症とその発症機序の検討
第15回日本臨床腫瘍学会2017年度Annals of Oncology賞	平成29年7月28日	臨床腫瘍学講座 教授 山田 康秀	Phase III study comparing oxaliplatin plus S-1 with cisplatin plus S-1 in chemotherapy-naive patients with advanced gastric cancer. Annals of Oncology 26(1): 141-148, 2015

Prize Winners

学生の受賞

中根 千夏　医学科4年

【賞の名称】
第114回 日本内科学会総会・講演会
「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2017東京」ポスター発表 優秀演題賞

【受賞内容（研究題目）】
糖尿病患者に関する医療訴訟から見た診療上の注意点

【受賞年月日】平成29年4月15日

【研究内容】
この研究は、法学研究室が作成している医療訴訟データベースより内分泌科関連の訴訟を抽出し、その傾向と対策を模索することを目的としました。内分泌科に関する訴訟の多くが糖尿病患者が原告であり、中でも糖尿病性ケトアシドーシスの診断の遅れを争点とするものが多く注意が必要であることがわかりました。

山本 実果　医学科4年

【賞の名称】
第114回 日本内科学会総会・講演会
「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2017東京」テーマ別公開討論会 優秀発表者賞

【受賞内容（研究題目）】
女性医師の理想像を考える

【受賞年月日】平成29年4月15日

【研究内容】
この発表では、厚生労働科学特別研究「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」のアンケート結果から男女別、配偶者・子供の有無別の労働時間や勤務形態等を明らかにすることで、仕事と家庭のどちらか一方を選ばざるを得ない女性医師の現状について問題提起をしました。

【賞の名称】
第244回日本循環器学会関東甲信越地方会
医学生向け発表会「Student Award」
最優秀賞

【受賞内容（研究題目）】
循環器関連訴訟の疾患別、争点別傾向から見た診療上の注意点

【受賞年月日】平成29年6月10日

【研究内容】
この研究は、法学研究室が作成している医療訴訟データベースより循環器関連の訴訟を抽出し、その傾向と対策を明らかにすることを目的としました。産婦人科、消化器科に次いで3番目に訴訟件数が多い循環器科では、全体的な認容率も高く、特にカテーテル治療の合併症に関しては医療者と患者、司法の間で認識が一致していない可能性が考えられました。

三野 華　医学科6年

【賞の名称】
第22回浜松医科学シンポジウム
優秀研究賞

【受賞内容（研究題目）】
生体アミン化合物を対象とした質量分析イメージングにおける新規誘導体化法の開発

【受賞年月日】平成29年6月7日

【研究内容】
質量分析イメージング（IMS）は、組織切片中の生体分子を観察する手法である。今回我々は、アミノ酸や神経伝達物質の効率的な検出を目指し、IMSのためのアミノ基の化学的誘導体化法の確立を試みた。
誘導体化処理を施したマウス脳切片の測定から、アラニン、GABA、セリン、システイン、タウリン、グルタミン酸、ドーパミン、セロトニンの8つの特異的なピークが観測された。さらにグルタミン酸、タウリン、セロトニンに関して、マウス脳切片における分布を可視化し、異なる分布を示すことを明らかにした。

鈴木 謙仁・髙見 菜々子・林 真莉子　医学科4年

【賞の名称】
第22回浜松医科学シンポジウム
優秀研究賞

【受賞内容（研究題目）】
HBC Study：乳児期の就寝時刻とM-CHATによるASD判定との関連についての研究

【受賞年月日】平成29年6月7日

【研究内容】
Hamamatsu Birth Cohort (HBC)参加児(959名)を対象とし、生後10か月時の就寝時刻と生後18か月時の自閉傾向の関連について検討しました。就寝時刻から対象を20パーセンタイルずつ5群（早寝群、やや早寝群、標準群、やや遅寝群、遅寝群）に分け、ロジスティック回帰分析により標準群と他群を比較したところ、夜間睡眠時間等を統制後、早寝群、遅寝群において自閉傾向が高い群との関連が見られました。本研究から、乳児期の就寝時刻が標準から大きくずれていることと、幼児期における自閉傾向との関連が示唆されました。

濱嶋 政樹　医学科4年

【賞の名称】
第22回浜松医科学シンポジウム
優秀研究賞

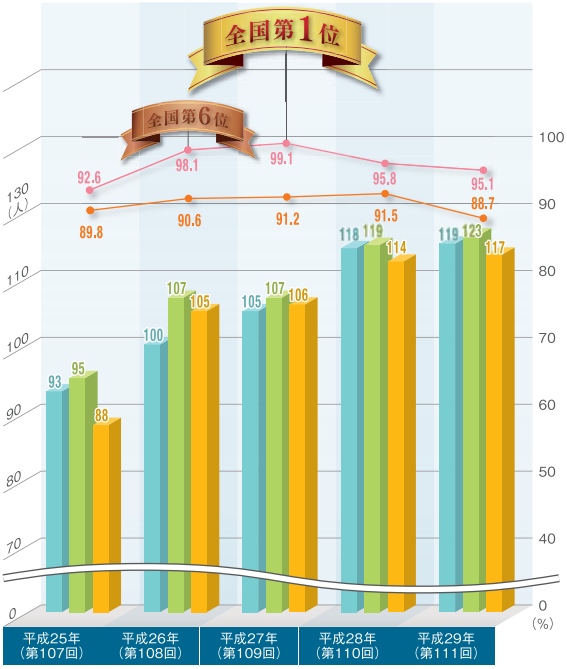
【受賞内容（研究題目）】
エレクトロポレーション法によるヒト疾患モデルマウスの作製

【受賞年月日】平成29年6月7日

【研究内容】
この研究は、CRISPR-Cas9というゲノム編集技術を用いてヒト疾患モデルマウスを作製する過程を通じて、遺伝子工学について理解を深めることを目標として行いました。今回4種類のマウスを作製し、ゲノム編集の仕組みや操作方法について学ぶことができました。今後はヒト疾患モデルマウスの解析を行うことで、遺伝子の機能や疾患の発症機序の解明、さらには治療薬の開発や治療法の確立につながることが期待されます。

国家試験合格状況

医師国家試験合格状況 [医学科卒業者]



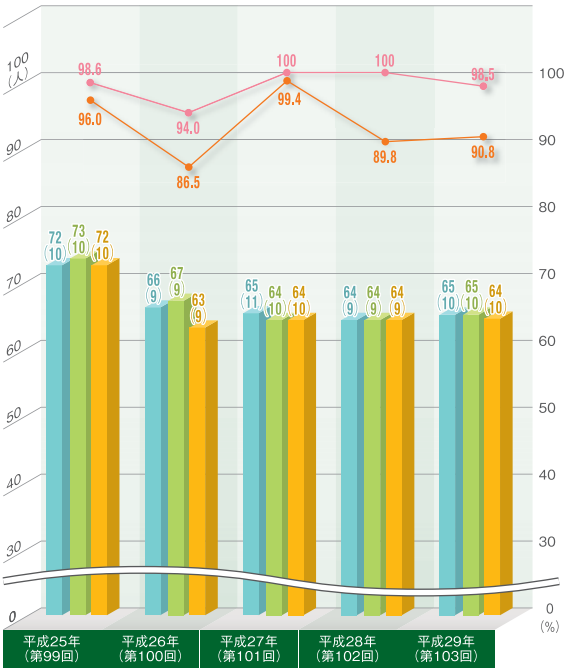
浜松医科大学
医学部附属病院勤務
医学科36期生
(平成29年3月卒業)
小島 千明

第111回医師国家試験大学別合格状況

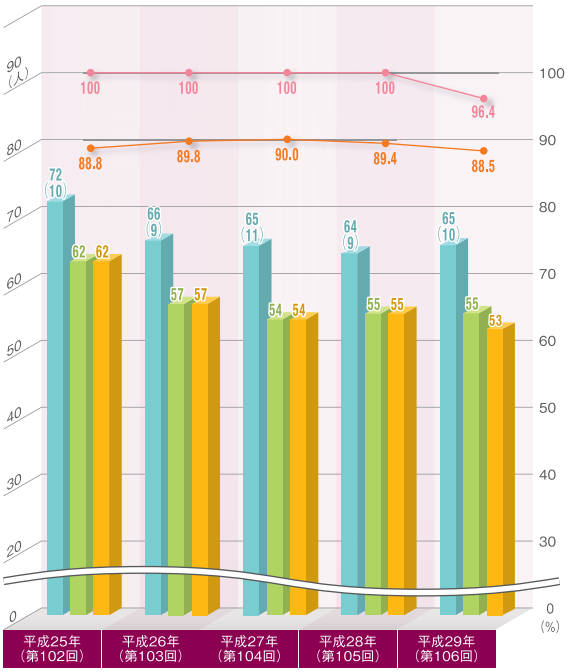
順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	101	101	100.0%
2	筑波大学医学専門学群	114	112	98.2%
3	名古屋市立大学医学部	113	110	97.3%
4	横浜市立大学医学部	89	86	96.6%
5	東京医科歯科大学医学部	109	105	96.3%
6	順天堂大学医学部	125	120	96.0%
7	金沢大学医学部	123	118	95.9%
8	慶應義塾大学医学部	114	109	95.6%
9	佐賀大学医学部	110	105	95.5%
10	**浜松医科大学**	**123**	**117**	**95.1%**
11	三重大学医学部	133	126	94.7%
12	東邦大学医学部	114	108	94.7%
13	東京医科大学	124	117	94.4%
14	鳥取大学医学部	123	116	94.3%
15	山形大学医学部	121	114	94.2%
16	大阪大学医学部	117	110	94.0%
17	広島大学医学部	132	124	93.9%
18	島根大学医学部	115	108	93.9%
19	千葉大学医学部	132	124	93.9%
20	九州大学医学部	117	109	93.2%
21	北里大学医学部	114	106	93.0%
22	岡山大学医学部	128	119	93.0%
23	東京慈恵会医科大学	99	92	92.9%
24	産業医科大学	109	101	92.7%
25	富山大学医学部	124	115	92.7%
26	旭川医科大学	137	127	92.7%
27	京都大学医学部	119	110	92.4%
28	福島県立医科大学	113	104	92.0%
29	徳島大学医学部	122	112	91.8%
30	和歌山県立医科大学	85	78	91.8%

(既卒を含む)

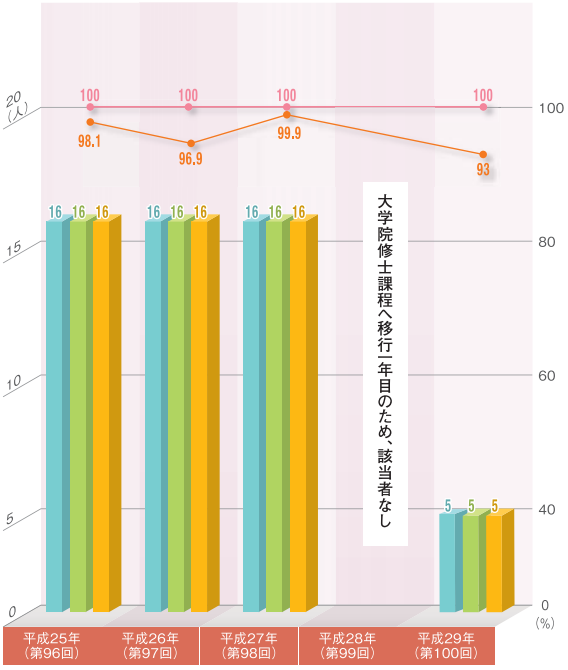
保健師国家試験合格状況 [看護学科卒業者]



看護師国家試験合格状況[看護学科卒業者]



助産師国家試験合格状況



卒業者数　受験者数〈既卒を含む〉　合格率〈既卒を含む〉

合格者数〈既卒を含む〉　（　）は新卒の3年次編入生で内数　全国平均合格率（既卒を含む）

浜松医科大学
医学部附属病院勤務
看護学科19期生
（平成29年3月卒業）
小林 磨依

University News & Events 大学ニュース

平成28年度 卒業生・修了生の進路状況

医学科

卒業者 119人

就職先等	内訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	14	14
国立大学附属病院	名古屋大学医学部附属病院	1	5
	信州大学医学部附属病院	1	
	東京大学医学部附属病院	1	
	千葉大学医学部附属病院	1	
	愛媛大学医学部附属病院	1	
公立大学病院	京都府立医科大学附属病院	1	3
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	2	
私立大学病院	自治医科大学附属さいたま医療センター	1	5
	順天堂大学医学部附属静岡病院	2	
	東京医科大学病院	1	
	慶応義塾大学病院	1	
国立病院等	国立国際医療研究センター	1	4
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	1	
	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	1	
	国立病院機構名古屋医療センター	1	
公立病院	磐田市立総合病院	8	45
	浜松医療センター	4	
	静岡県立総合病院	8	
	静岡市立静岡病院	6	
	市立島田市民病院	1	
	中東遠総合医療センター	2	
	藤枝市立総合病院	3	
	富士宮市立病院	1	
	沼津市立病院	1	
	伊東市民病院	1	
	飯田市立病院	1	
	伊勢崎市民病院	1	
	一宮西病院	2	
	青梅市立総合病院	1	
	大津市民病院	1	
	公立昭和病院	1	
	茅ヶ崎市立病院	1	
公立病院	豊川市民病院	1	
	豊橋市立病院	1	
その他病院	JA静岡厚生連　遠州病院	2	38
	聖隷三方原病院	5	
	聖隷浜松病院	4	
	静岡済生会総合病院	1	
	静岡赤十字病院	3	
	JA茨城県厚生連総合病院土浦協同病院	1	
	伊勢原市協同病院	1	
	板橋中央総合病院	1	
	刈谷豊田総合病院	1	
	京都第一赤十字病院	1	
	協立総合病院	1	
	国家公務員共済組合連合会　虎の門病院	1	
	済生会横浜市東部病院	1	
	湘南鎌倉総合病院	1	
	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市南部病院	1	
	湘南東部総合病院	1	
	聖隷横浜病院	1	
	総合大雄会病院	1	
	津田沼中央総合病院	1	
	栃木県済生会宇都宮病院	1	
	トヨタ記念病院	1	
	豊田厚生病院	2	
	名古屋記念病院	1	
	名古屋第二赤十字病院	1	
	成田赤十字病院	1	
	日本赤十字和歌山医療センター	1	
	横須賀共済病院	1	
国家試験不合格		5	5

合計 119

看護学科

卒業者 65人

就職先等	内訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	15	15
国立大学附属病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	5	9
	名古屋大学医学部附属病院	3	
	岡山大学病院	1	
私立大学病院	日本医科大学付属病院	1	2
	東海大学医学部付属八王子病院	1	
公立病院	静岡県立総合病院	2	9
	静岡県立静岡こども病院	1	
	静岡県立静岡がんセンター	1	
	静岡市立静岡病院	2	
	藤枝市立総合病院	1	
	岡崎市民病院	1	
	京都市立病院	1	
その他病院等	浜松市リハビリテーション病院	1	11
	聖隷三方原病院	2	
	静岡赤十字病院	2	
	静岡済生会総合病院	1	
	済生会横浜東部病院	1	
その他病院等	葉山ハートセンター	1	
	東濃厚生病院	1	
	西宮協立脳神経外科	1	
	天使病院	1	
国・県・市・健診センター	浜松市保健師	4	8
	掛川市保健師	1	
	静岡県保健師	1	
	沼津市保健師	1	
	伊豆市保健師	1	
企業	プライムアースEVエナジー株式会社	1	2
	スズキ株式会社	1	
進学	浜松医科大学大学院助産師養成コース	3	4
	聖隷クリストファー大学助産学専攻科	1	
その他	西部特別支援学校	1	2
	静岡県立湖北高等学校（養護教諭）	1	
未定		1	1
国家試験不合格		2	2

合計 65

大学院修士課程助産師養成コース

修了者 5人

就職先等	内訳	人数	(人)
本学附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	2	2
国立大学附属病院	京都大学医学部附属病院	1	1
公立大学附属病院	名古屋市立大学病院	1	1
その他病院	済生会宇都宮病院	1	1

合計 5

平成29年度
入学者選抜試験実施状況

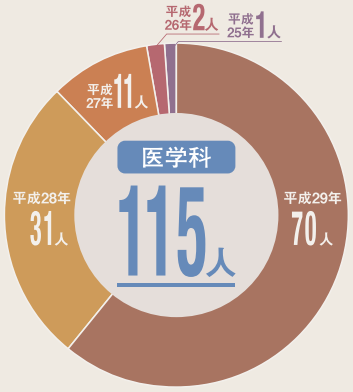
入学者選抜試験実施状況

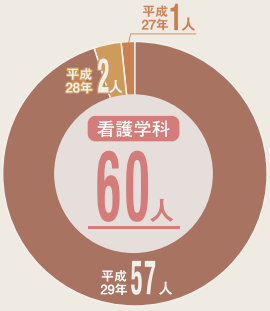
学科名	区分［募集人員］	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程［75］	420（138）		356（124）	75（30）	0（0）	0（0）	75（30）
	後期日程［10］	145（59）		61（25）	10（4）	2（1）	2（1）	10（4）
	推薦入試［30］	94（41）		92（40）	30（11）	0（0）	0（0）	30（11）
	帰国子女［若干名］	9（4）		4（2）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
	私費外国人［若干名］	0（0）		0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
	合　計［115］	668（242）		513（191）	115（45）	2（1）	2（1）	115（45）
	2年次編入学［5］	130（41）	40（10）	35（8）	5（0）	1（0）	1（0）	5（0）
看護学科	前期日程［35］	57（57）		54（54）	35（35）	2（2）	1（1）	34（34）
	推薦入試［25］	59（57）		59（57）	26（24）	0（0）	0（0）	26（24）
	帰国子女［若干名］	1（1）		1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
	社会人［若干名］	3（3）		3（3）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
	合　計［60］	120（118）		117（115）	61（59）	2（2）	1（1）	60（58）
	3年次編入学［10］	23（20）		23（20）	10（8）	5（5）	3（2）	8（5）

（　）内数字は、内数で女子を示す。

高等学校等卒業年別入学者状況

［編入者を除く］

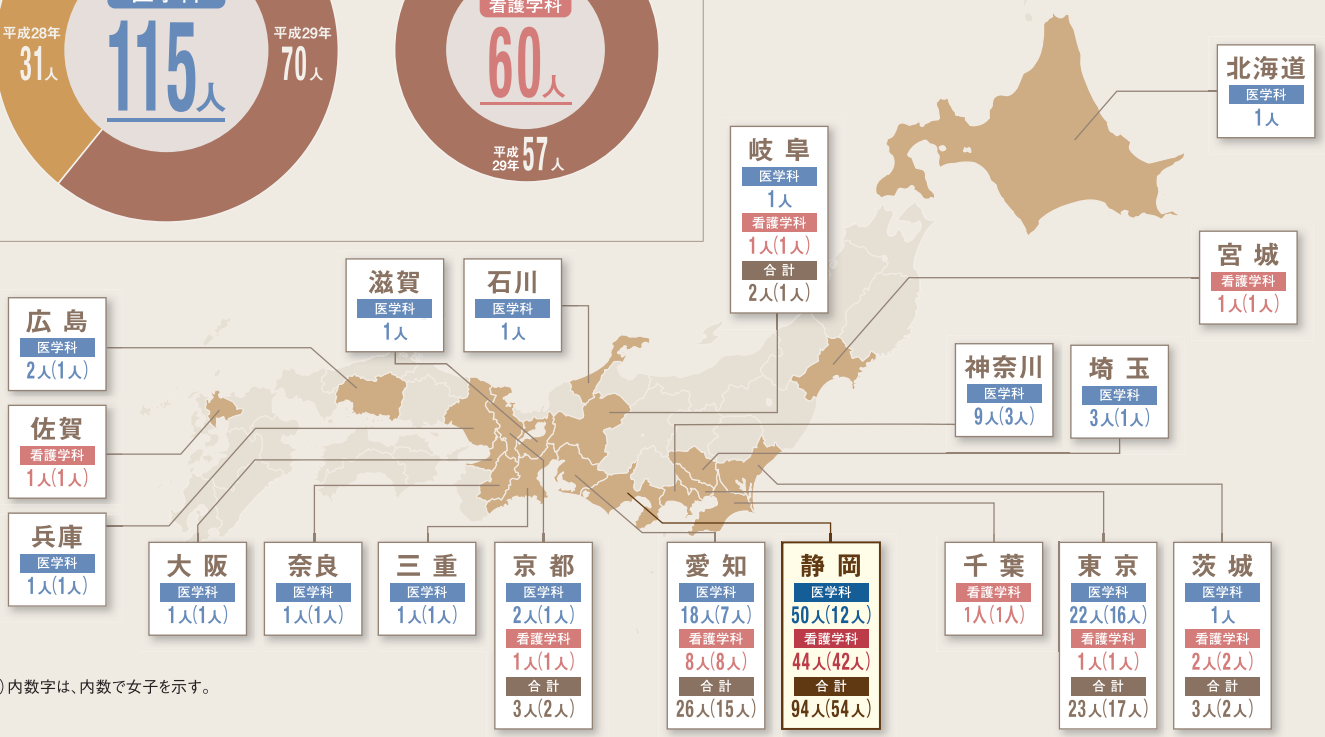




出身高等学校等所在都道府県別入学者状況

医学科 115人（45人）　看護学科 60人（58人）

総計 175人（103人）［編入者を除く］



（　）内数字は、内数で女子を示す。

留学生の紹介

再び浜松を訪れ、父と同じ浜松医科大学の大学院生となれるなんて思いもしませんでした

International Student Introduction

大学院医学系研究科（博士課程）3年　産婦人科学講座

Urmi Jeenat Ferdous

（ウルミ・ジナット・フェルドウス）

出身国

バングラデシュ

My research:Developmental Origin of Health and Disease: (DOHaD)

My research is based on the concept of DOHaD. International society of DOHaD promotes research on fetal origin of non-communicable diseases. In Japan recently NAFLD (Non Alcoholic Fatty Liver Disease) has become a potential public health issue and we propose malnutrition environment in utero might play causative role upon this. It has been reported that due to strong desire to be slim, Japanese young women tends to control their body weight very strictly resulting in inadequate weight gain during their gestational period. I am doing epigenetic analysis to clarify the underlying pathophysiology and influence of maternal nutrition over future outcome. Through this study we hope to develop a possible curative intervention in early stage among high risk group to develop metabolic syndrome.

Before Japan

After my graduation I was working at RADDA MCH-FP Center located in Dhaka, Bangladesh. I was a trainer of social health care workers on nutrition and also as a doctor to manage severe and moderate malnutrition in children. Now I can co-relate my research to my past experience and how my country needs improvement in this sector.

How is Bangladesh?

Bangladesh is one of the youngest countries with rapidly progressing economy, with a population of 160million in an area smaller than Honshu island of Japan. We possess similar culture and tradition like Japan, such as food habit based on rice or afternoon tea like black and Ceylon. Our hospitable and friendly people welcome guest with same warmth as here. World's longest sea beach, "Cox's Bazar" and largest mangrove forest, "Sundarbans" are the most popular tourist spots among the foreigners.

Why I am in Hamamatsu?

I was living in Hamamatsu when my father Prof. Dr. Abdul Halim was a PhD student under the supervision of Prof. Dr. Naohiro Kanayama and belated Prof. Dr. Toshihiko Terao 20 years ago. I was lucky to get acquaintance with these great researchers and friendly persons. I always wished I could visit Hamamatsu again and meet all my old friends to recapitulate my old memories. Never knew my dream will come true by becoming a PhD student myself in this same institute.Fortunately last year when my father came back to Japan for a lecture in this university, I also presented my research in a scientific congress in front of him.

▲25年前、故寺尾元学長と（左手前が筆者）

▲父の前で研究発表

研究テーマを教えてください

私の研究は、胎児期～幼小児期の環境が成人期の慢性疾患リスクに影響を与えるとするDevelopmental Origins of Health and Disease（DOHaD）概念に基づきます。国際DOHaD学会では、胎児由来の生活習慣病の発生要因の研究を推進しています。近年日本においても潜在する非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）が社会問題となっており、私たちは子宮内環境の栄養失調がこの原因として働く可能性を提示しています。日本人の若い女性は痩せ願望が強く、無理な体重管理を行う傾向にあり、結果として妊娠期間の不十分な体重増加を引き起こしています。病態生理と母性栄養が胎児の成長後の健康への影響を明らかにするため、エピジェネティック解析を行っています。この研究により、メタボリック症候群の発症リスクの高いグループの早期インターベンション治療を開発したいと考えています。

日本に来るまでは どこでどんな勉強をしていましたか？

大学卒業後、バングラデシュのRADDA MCH-FP Centerで働いていました。保健師と協力して栄養指導を行い、医師として子どもたちの重度から軽度までの栄養失調の管理をしていました。今、私の研究では、この分野における過去の経験を生かして、自国で必要とされている改善点に注目しています。

出身国（地域）はどんな様子ですか？

バングラデシュは人口1億6000万人が日本の本州よりも小さな面積に暮らす、急成長を遂げている新興国の一つです。主食がお米、お茶（紅茶）を飲む習慣など、日本によく似た文化や伝統があります。ここ日本と同じように、親切で友好的な人々がゲストを温かくもてなします。世界最長の天然砂浜の海岸線「コックスバザール」や、マングローブの群生地帯「シュンドルボン」が外国人観光客に最も人気な観光地です。

浜松医科大学に来たきっかけは？

父Prof. Dr. Abdul Halimは20年前、浜松医科大学の大学院生で、金山尚裕教授と故寺尾元学長のご指導を受けていました。私は、思いやりのあるすばらしい人格者であるこの二人の研究者と知り合えるという幸運に恵まれました。いつか再び浜松を訪れ、旧友たちと昔話ができる日が来ることをずっと願っていました。父と同じ大学の大学院生となり、その夢が実現するなんて思いもしませんでした。幸運なことに、去年父は浜松医大で講演をするため日本にまた帰ってくることが出来ました。私もまたその機会に、父の前で私の研究について学会発表をすることが出来ました。

浜松医科大学基金へご協力いただき、心よりお礼申し上げます。

浜松医科大学基金の目的

平成28年7月に、教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、「浜松医科大学基金」を設立しました。「浜松医科大学基金」を通じて、医学・看護学を安心して教育・研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を安定的に提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。　浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。

平成29年度基金による支援計画

学生のTOEIC受験について支援、グラウンドのベンチ交換について支援、留学生との意見交換会について支援、修学支援事業などを予定しています。

寄附者ご芳名

平成29年2月から平成29年8月までにご寄附いただいた方で、お名前の公表をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。
なお、本学職員につきましては割愛させていただきました。

個人

家田 貴子 様
河迫 重孝 様
桑原 弓枝 様
小林 隆夫 様
坂本 和浩 様
佐野 弘 様
鈴木 昌八 様
鈴木 康正 様
鈴村 佳弘 様
髙澤 和己 様
滝浪 實 様
竹内 宏一 様
田島 良雄 様
田所 茂 様
津幡 佳伸 様
富田 敏夫 様
中田 知穂 様
中村 達 様
名倉 康雄 様
西脇 由朗 様
野田 恒夫 様
橋本 泰幸 様
長谷川 篤志 様
美津島 隆 様
箕岡 三穂 様
村上 勝 様
山崎 勝康 様

（本学職員 31名）

法人・団体等

一般社団法人 浜松市医師会 様
医療法人社団越和会 北原内科医院 様
医療法人社団盛翔会 様
医療法人社団たんぽぽ 様
医療法人社団万世会 渡辺整形外科 様
医療法人社団まなも 様
医療法人社団明山会 様
医療法人松本皮膚科形成外科医院 様
株式会社 谷島屋 様
サカイ脳神経外科 様
市立湖西病院 様
中部電力株式会社 様
特定非営利活動法人
浜松がん臨床研究支援機構 様
浜北日中友好協会 様
浜松信用金庫 様
ヤマハ株式会社 様

浜松医科大学基金創設記念式典を挙行

平成29年6月7日（水）、本学臨床講義棟にて、浜松医科大学基金創設記念式典を挙行しました。

浜松医科大学基金は、平成28年7月に設立し、11月から本格的に募金活動を開始しました。

大学を取り巻く経営環境は、年々厳しさを増しているのが実情であります。しかし、そのような状況の中でも、優れた教育・研究・診療を行い、学生・教職員の皆さんが安心して学業・業務に打ち込める環境を整備するために「浜松医科大学基金」が創設されました。既に多くの方々からご寄附をいただいております。

寄附者銘板を設置し、除幕式と感謝状贈呈式を執り行いました。
改めて感謝申し上げるとともに、本学の更なる発展に皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申し込みについて

電話、FAX、またはメール等でお名前とご住所をお知らせください。ご寄附に必要な書類をお送りいたします。浜松医科大学基金ホームページより、クレジットカードでのご寄附も受け付けております。

浜松医科大学基金ホームページ
http://www.hama-med.ac.jp/kikin/

お問い合わせ先

浜松医科大学基金事務局 総務課広報室広報・基金係
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1
E-mail kikin@hama-med.ac.jp
TEL 053-435-2107　FAX 053-435-2112

▲外来での集合写真です（筆者後列右から3番目）

▼カテーテル室にて

子育て循環器科医のwork life balance

医学科28期生
（平成19年3月卒業）
城向 裕美子

皆様、こんにちは。

私は2007年3月に浜松医科大学医学部を卒業し、現在は中東遠総合医療センター循環器科医師として勤務し、二人の男児をもつ母でもあります。

女性医師にとっては、働き方、結婚や子育ての時期などは人生の大きな分岐点です。今回は子育て女医の一例として、私が卒業後どのように過ごしてきたのかをご紹介します。

浜松医科大学卒業後、聖隷浜松病院にて初期研修、東京医療センター循環器科にて後期研修を行いました。どちらも若いスタッフが多く教育的な病院で、上級医や同僚、コメディカルの方々にも恵まれ、充実した研修を行うことができました。この時はただ仕事についていくことに夢中で、毎日が病院と家の往復でした。臨床研究や学会発表も積極的に行い、今思えばこれほど自分のための時間が自由になることはこの先しばらく無いので、自分のキャリアにとってこの時期は大きなプラスとなりました。

とはいえ、勉強と仕事ばかりしていたわけでもなく、この頃アフリカ最高峰のキリマンジャロを登頂し、大学の同級生であった夫と結婚し、新婚旅行として世界一周旅行に出かけました。小さなスーツケースを持って空路、陸路、水路を移動しながら6ヶ月間かけて、5大陸30ヵ国以上を巡り、様々な文化、宗教、自然を目の当たりにしてきました。

その後、夫の異動に伴い静岡県に戻り、現在の中東遠総合医療センター循環器科で働き始めました。同センターは2013年に掛川市に開院した新しい病院で、500床33科からなり、循環器科は医師9名が勤務し、昨年はCAG1,023件、PCI428件を行っています。

緊急の多い科でありやはり忙しい毎日ですが、症例数も多く充実した診療生活を送っていました。ここ数年で第1子、第2子と立て続けに出産しました。ありがたいことに非常に理解のある上司と同僚にサポートいただき、産前まで通常勤務を続け、第1子出産後からは当直を免除、さらに第2子出産後は午後4時までの時短勤務としていただきました。子育て期の女医にとってとても恵まれた環境だと思います。

朝は5時に起きて朝食の用意や保育園の準備、子どもたちと自分の身支度をしてバタバタと出かけ、院内保育園に子どもを送り届けます。日中は外来、カテーテル、入院管理、外勤などを行いますが、時間に追われているうちにあっという間にお迎えの時間です。保育園で子どもを迎え、山のような洗濯物とオムツを抱え、帰ってくると子どもの相手をしながら夕食の準備をします。後片付け、洗濯、お風呂・・とバタバタしているうちに、子どもたちの寝る時間です。日中は仕事をしていても、家に帰ったら子どもとしっかり向き合いたいというのが、働く女性の切なる想いだと思います。寝かしつける前には絵本を読んだり、お話をしたり、一緒に遊んで笑顔いっぱいになれるように心がけています。

こんな生活ですが、隙間時間に勉強もして循環器専門医試験にも合格することができました。週末は子どもたちと出かけ、夏休みには家族旅行をします。なんとかなるものです。夫と協力しながら、職場の同僚、車で2時間ほどの両実家、保育園の先生方から近所の知り合いまで、たくさんの方々にお世話になり毎日を送っています。

今は自分の時間はどこ～？と毎日思いますが、小さな子どもたちとの生活はきっとあっという間。こんなバタバタした生活を、いつか懐かしく思うに違いないのです。

▲家族写真です

Alumni News

卒業生は今

▼入口から見た保健室の写真です。広い空間、明るさ、清潔感を意識しています。執務机が入口を向いていて、児童が来室した時、すぐに分かる様になっています

▲6年生 保健学習「病気の予防」の授業を学級担任と行いました

1 養護教諭っていいな

看護学科13期生
（平成23年3月卒業）
宮崎 整子

私は今、掛川市の小学校で養護教諭をしています。養護教諭として7年目を迎えました。子どもたちと遊んだり、笑ったり、毎日が充実しています。

さて、皆さんは養護教諭という職業にどんなイメージを持っていますか。多くの方が、小学校や中学校の保健室に居て、いつも笑顔でやさしい女性の先生と思っていらっしゃるのではないでしょうか。実は最近、男性の養護教諭が採用されています。時代のニーズに応じて養護教諭も変化しているなあと感じます。

今日は、私のお話をしたいと思います。よく、「どうして、看護師ではなく、養護教諭になったのですか?」と、聞かれます。私の答えはこうです。「どちらにも、なりたかったから、両方の勉強をしました。どちらも笑顔で輝いているイメージ。それでも養護教諭を選んだのは、子どもが大好きだということ。基本的な生活習慣が作られる時期にアプローチをすることで、子どもたちが生きる力を身につける手伝いをしたいと思ったからです。」

養護教諭という職業について少し知っていただきたいので、私の一日を紹介したいと思います。勤務時間は基本的に8:00～16:30です。カレンダー通りの休日があります。7:30（出勤）保健室の準備、8:30（健康観察）すべての学級に出向きます。9:30～（執務）ケガの手当、病気の看病、保健室登校の子との関わり、報告書やほけんだより等の作成、保健室前掲示物の作成、保健指導の授業準備・実施、校内巡視、健康相談、12:30(給食)職員室や教室で食べます、13:00（昼休み）児童と遊んだり、児童保健委員への指導をしたりします。13:40（清掃）保健室の清掃、トイレ掃除の指導、14:00～（執務）午前中と同様。他にも身体測定や健康診断の計画立案・実施、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等の専門機関との連携も行っています。

また、なるべく子どもと一緒に遊んでみたり、教室におじゃまして勉強のお手伝いをしたりしています。子どもたちと接していると、子どもたちの日々の成長を感じて、とてもうれしくなります。養護教諭という職業の奥深さ、やりがい、面白さ、難しさ・・・本当にいろいろと感じる日々です。

養護教諭は学校に一人しか居ません。学校（児童＋保護者＋教職員） 対 自分（養護教諭）看護です。常に気を配り、健康状態の把握に努めなくてはなりません。また、養護教諭は「気づきのスペシャリスト」とも言われます。常にみているからこそ気づく、ほんのちょっとのサインを見逃さないように気をつけています。

よく子どもたちにこんなことを言われます。「保健室の先生って。ひまそうでいいね。」私は、「いいでしょ。いつでも遊びにおいで。」と笑顔で答えます。実際は、ひまではありません。でも、子どもたちがいつでも来室しやすいように、私に話しかけやすいように心がけています。ひまそうに見せることもテクニックの一つです。

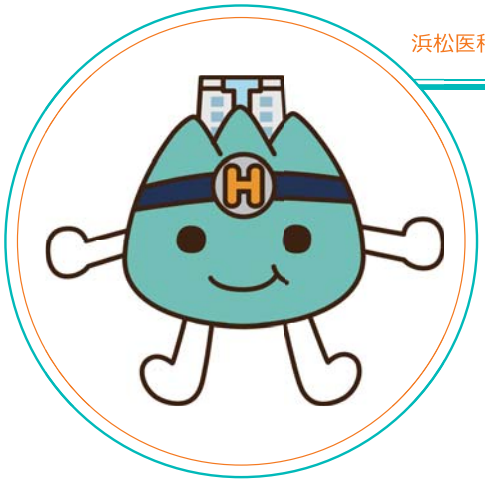
少し、養護教諭について知っていただけたでしょうか。まだまだ未熟で、学ぶべき事が多い私ですが、やりがいを持っていきいきと、子どもたちの成長のお手伝いをしていきたいと思います。

▲同僚性を高めるために、伊勢神宮へ職員旅行に行きました（筆者前列1番右）

浜松医科大学開学記念式典

特別講演 光医学教育シリーズ（光医学教育研究拠点形成事業）

平成29年6月7日（水）、本学臨床講義棟にて、浜松医科大学開学記念日における記念行事を行い、大阪大学産業科学研究所副所長 永井健治氏に『浜松医科大学メディカルフォトニクスコースと私』の題目で特別講演をしていただきました。



浜松医科大学マスコットキャラクター はんだやまっぴー

プロフィール

半田山の木々から生まれた山の精。常に最新の医学を勉強し、患者さんを笑顔に、元気にすることが何よりの生きがい。

平成28年度から、国立大学法人として第三期がスタートしました。本学では蓄積された教育・研究・診療等の実績を社会にアピールするとともに、地域社会との連携をより推進することが求められています。

これを機に、地域をはじめ皆様に愛され親しみやすい大学を目指して、マスコットキャラクターの作成を計画し、平成28年9月に学内公募をしました。

平成28年11月に職員の藤森順子氏の作品を「マスコットキャラクター」に決定しました。

浜松医科大学建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

浜松医科大学の目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

編集後記

今年度第1号の浜松医科大学ニュースレターをお届けします。今号も職員、学生、卒業生の皆さま方の研究、教育、サークル活動など多岐にわたる素晴らしい活動の様子をお伝えしています。また平成30年度開設の光医工学共同専攻、基礎臨床研究棟改修事業などますます進化していく本学の姿もご紹介しています。

そして今号表紙には浜松医科大学マスコットキャラクター「はんだやまっぴー」が本誌初登場!裏表紙にはプロフィールも掲載されていますのでぜひチェックを。末筆になりますが、ご多忙の中原稿を寄稿いただいた筆者の皆さまに深く御礼申し上げます。

ニュースレター編集委員 T.O.

ニュースレターはホームページからもご覧いただけます。
https://www.hama-med.ac.jp/

facebook を始めました！

浜松医科大学
https://facebook.com/HamamatsuUniversitySchoolofMedicine

浜松医科大学医学部附属病院
https://facebook.com/HamamatsuUniversityHospital

原稿募集

小誌をご覧になられた感想はいかがでしたでしょうか。
読後のご感想やご意見をお寄せください。また、各欄（「研究最前線」「海の向こうで」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など）への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。

職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。誌面づくりに、ぜひご参加ください。

広報室 koho@hama-med.ac.jp

編集・発行 浜松医科大学ニュースレター編集部会

発行日 平成29年10月1日

お問い合わせ 国立大学法人浜松医科大学 総務課 広報室
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111（代表）